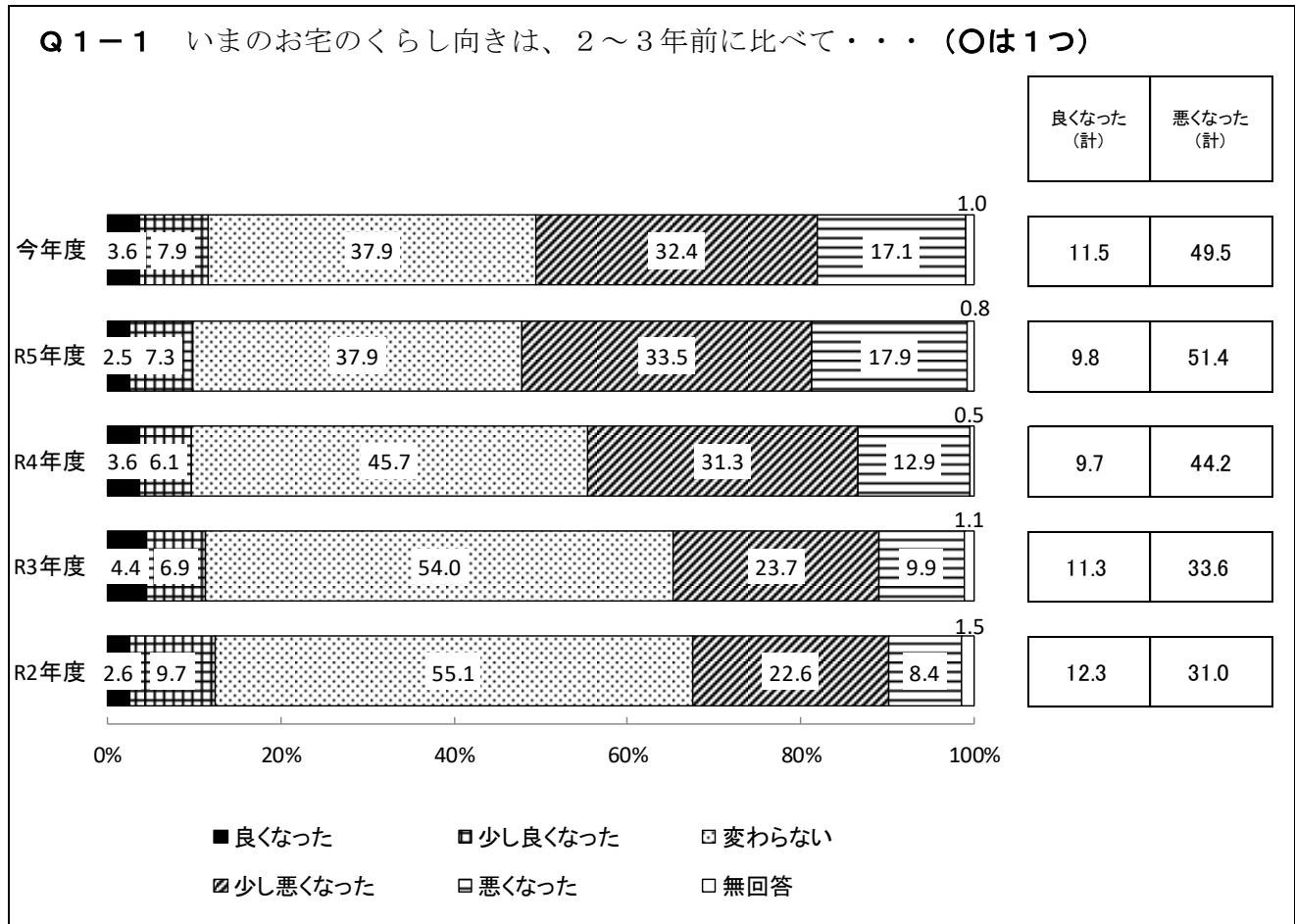


## II. 調查結果

## Ⅱ. 調査結果

### 1. 県民の生活実感

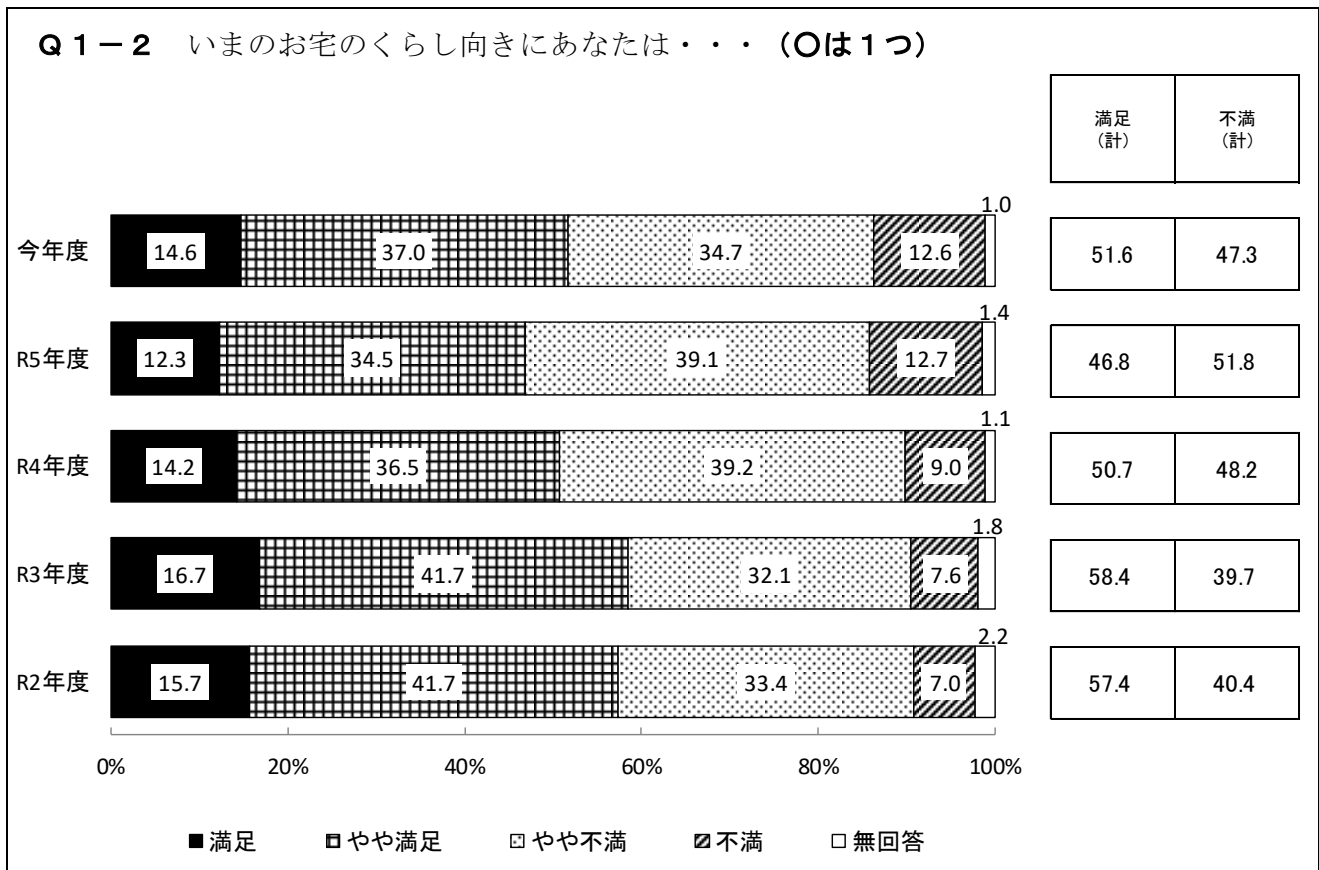
#### 1-1. 暮らし向きの変化



2～3年前に比べて暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった(計)』が11.5%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった(計)』が49.5%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『良くなった(計)』が1割前後、『悪くなった(計)』は3割から5割強で推移している。

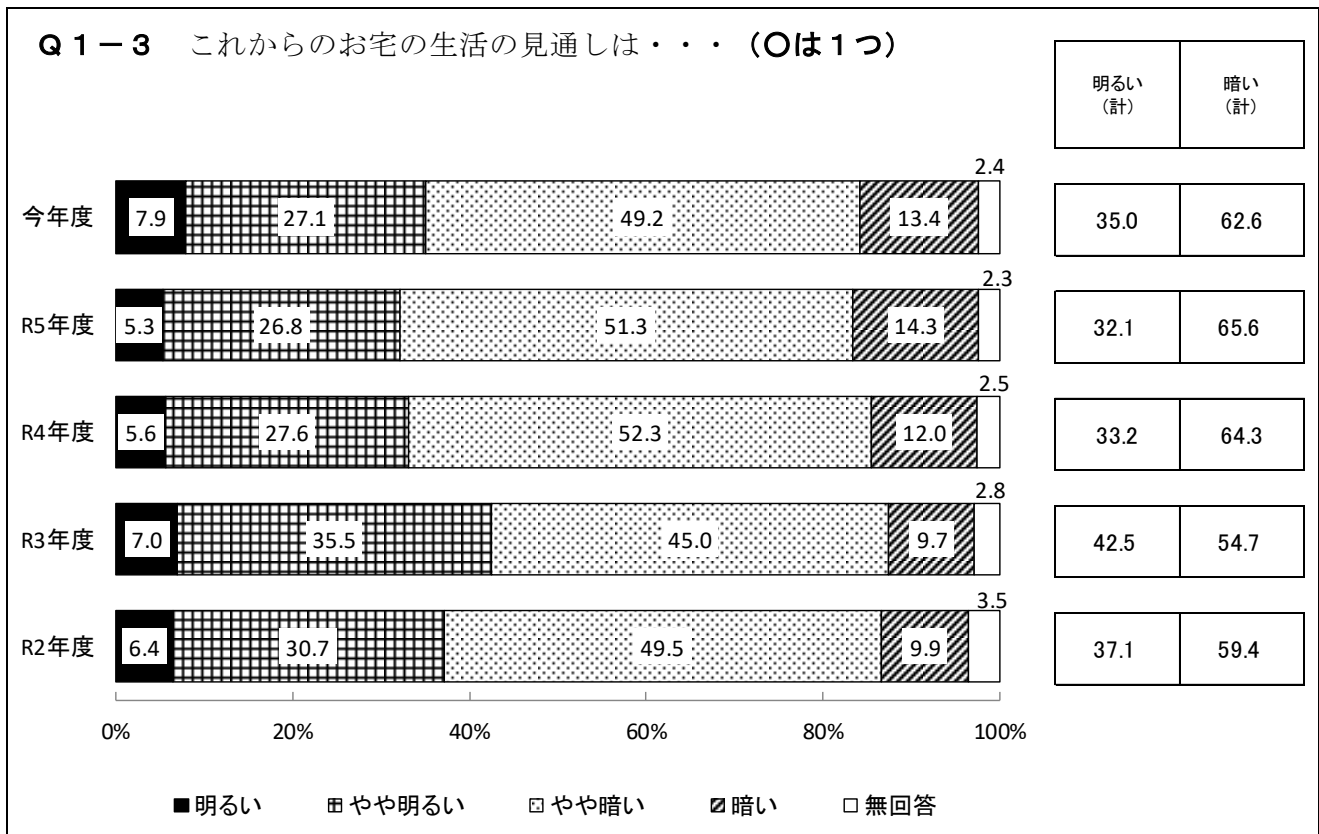
1-2. 暮らしの満足度



現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足(計)』が51.6%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満(計)』が47.3%となっている。

直近5年間の回答状況を見ると、『満足(計)』は4割半ばから5割台、『不満(計)』は4割前後から5割強で推移している。

1-3. 今後の生活の見通し

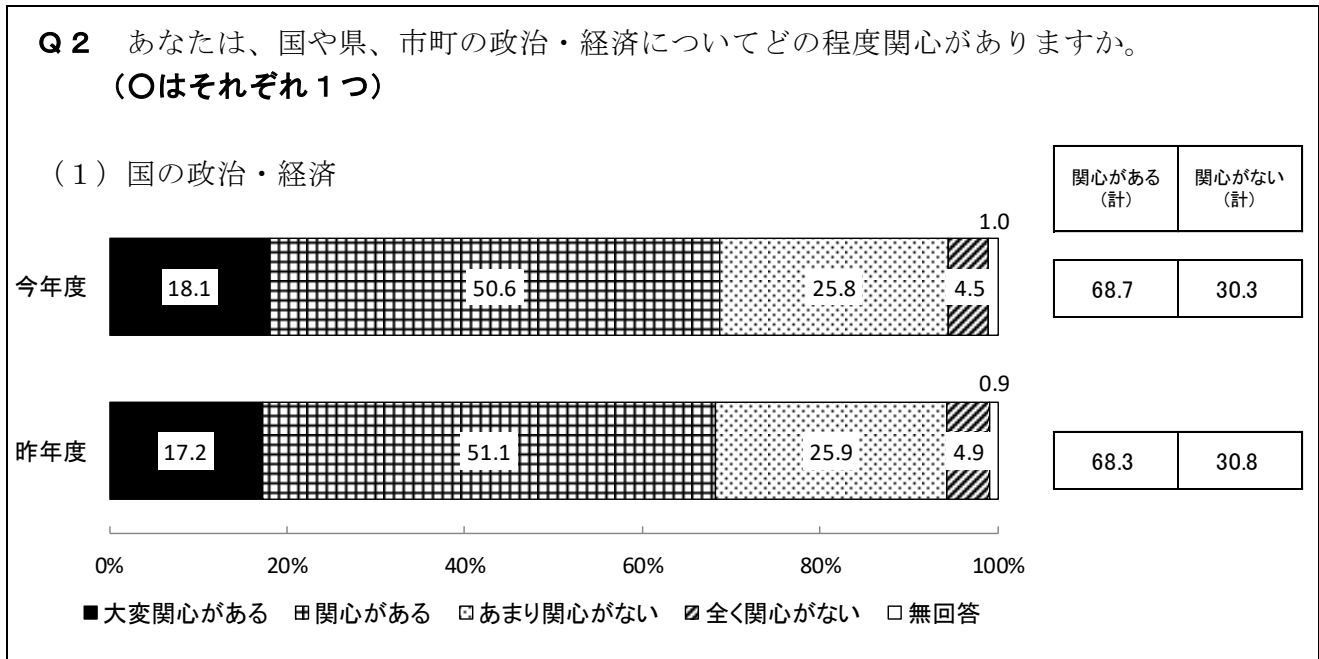


今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい (計)』が35.0%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い (計)』が62.6%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『明るい (計)』は3割強から4割強、『暗い (計)』は5割半ばから6割半ばで推移している。

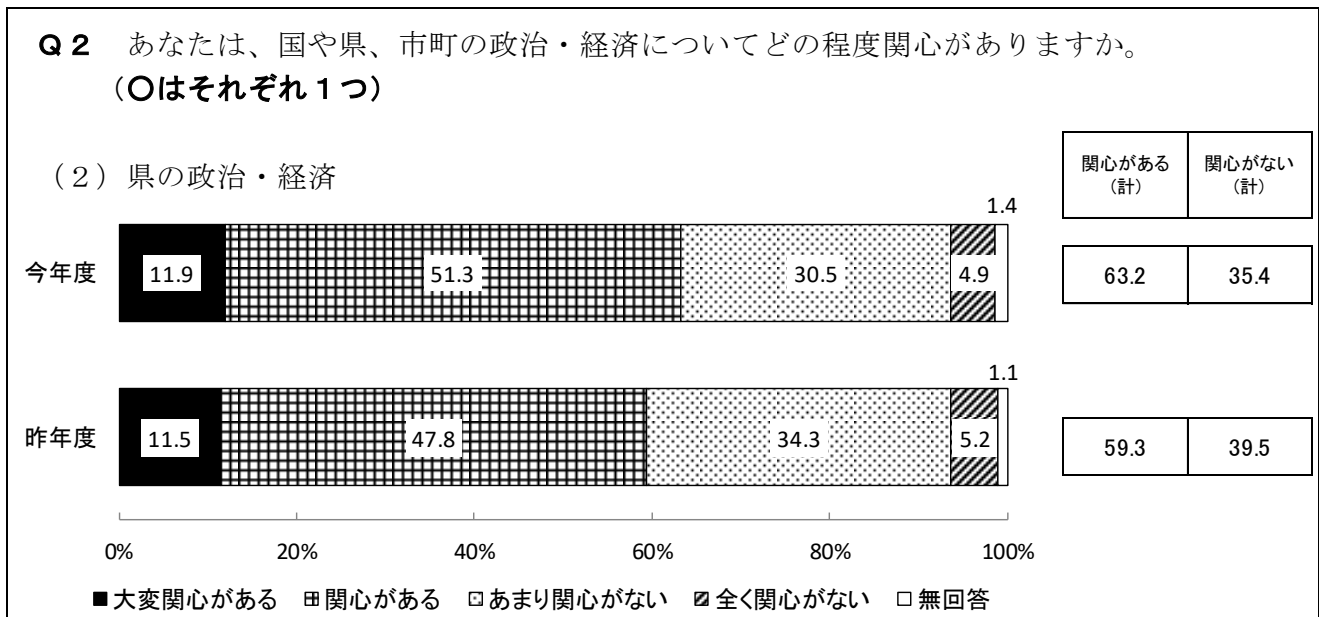
## 2. 政治や経済への関心

### 2-1. 国の政治や経済への関心



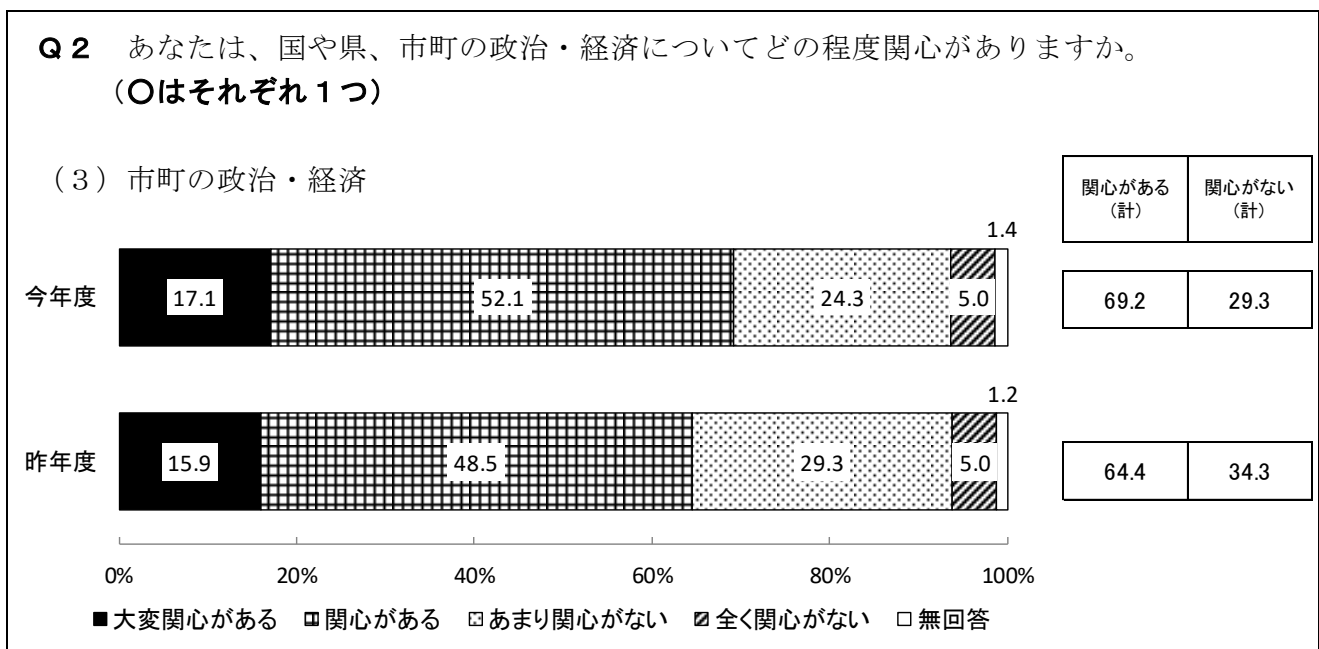
国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が68.7%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が30.3%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較しても、差はみられなかった。

## 2-2. 県の政治や経済への関心



県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が63.2%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が35.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は3.9ポイント上昇、『関心がない(計)』は4.1ポイント低下している。

## 2-3. 市町の政治や経済への関心

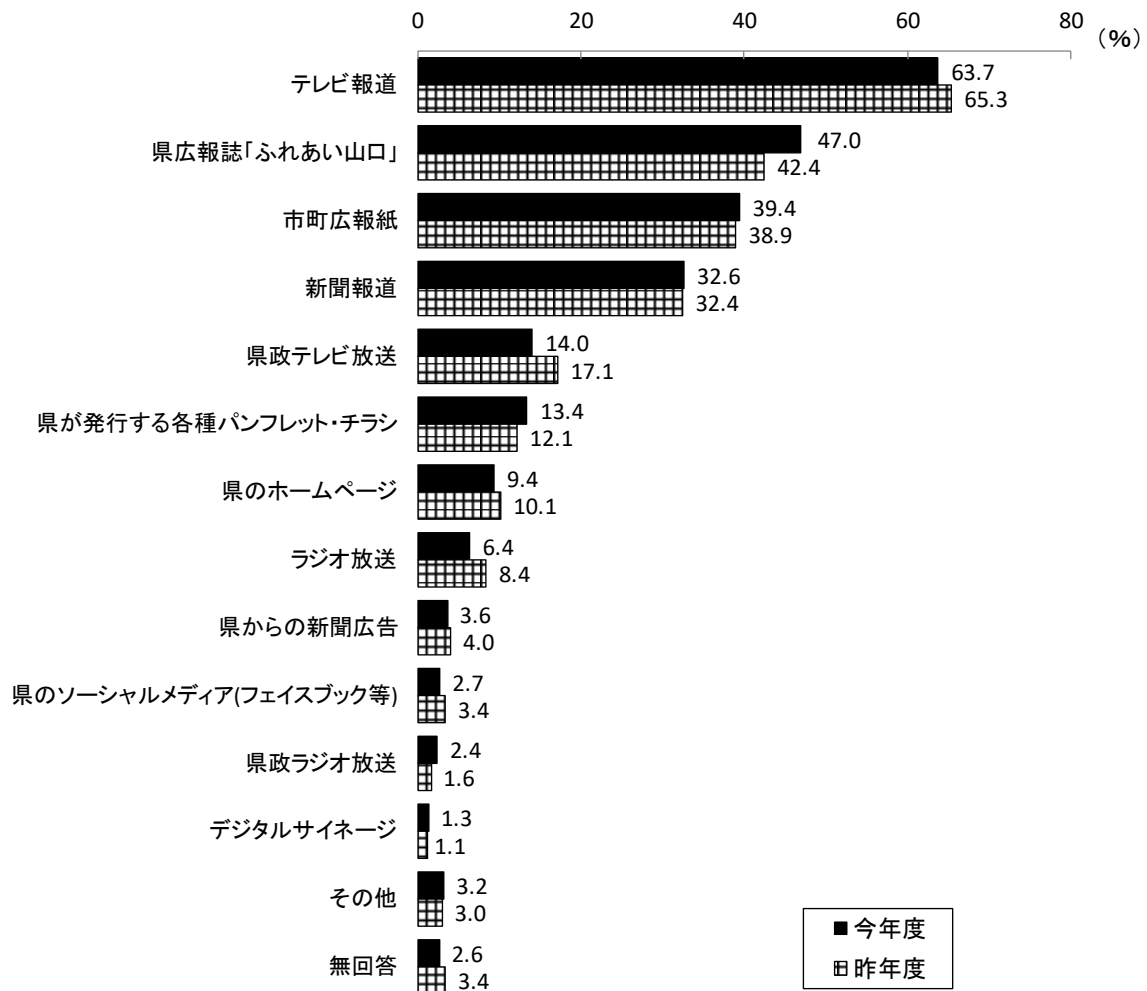


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が69.2%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が29.3%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は4.8ポイント上昇、『関心がない(計)』は5.0ポイント低下している。

### 3. 県が行う広報の認知等

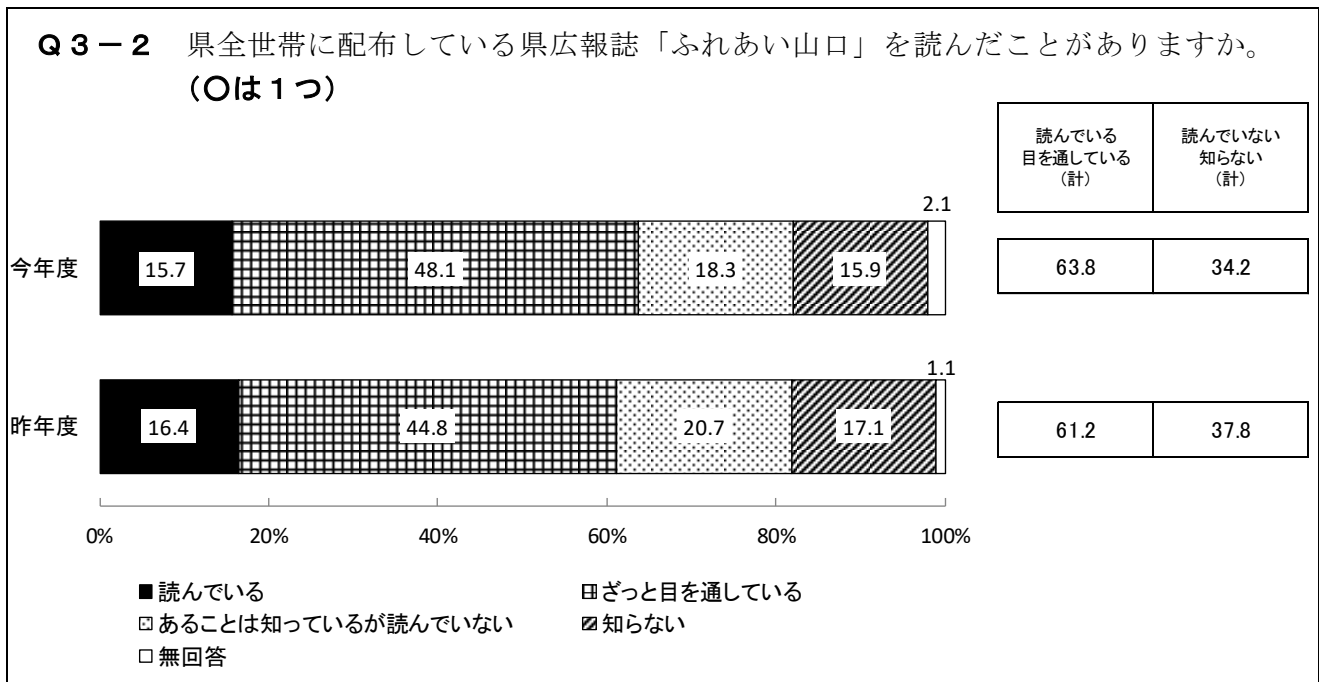
#### 3-1. 県の仕事の認知媒体

Q3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。(〇はいくつでも)



県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が 63.7%と最も高く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が 47.0%、「市町広報紙」が 39.4%、「新聞報道」が 32.6%、「県政テレビ放送」が 14.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「県広報誌『ふれあい山口』」で 4.6 ポイント上昇し、「県政テレビ放送」で 3.1 ポイント、「テレビ報道」で 1.6 ポイントそれぞれ低下している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通している」を合わせた『読んでいる・目を通している（計）』は63.8%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない（計）』は34.2%となっている。昨年度と比較すると、『読んでいる・目を通している（計）』は2.6ポイント上昇し、『読んでいない・知らない（計）』は3.6ポイント低下している。



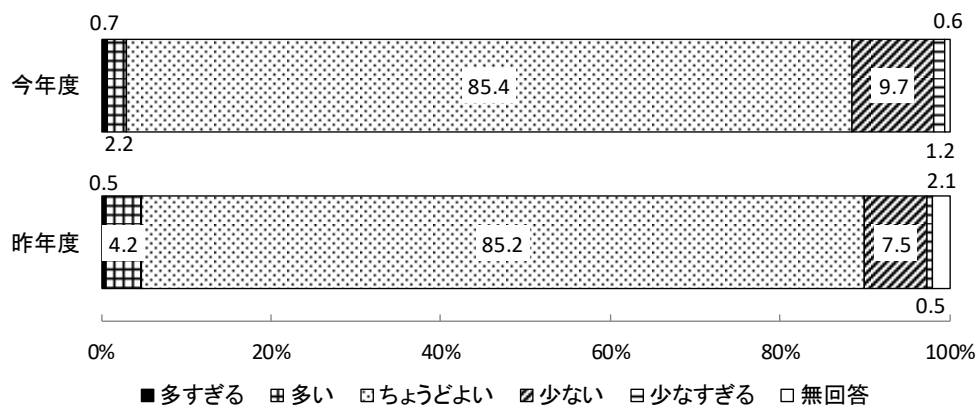
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=802)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

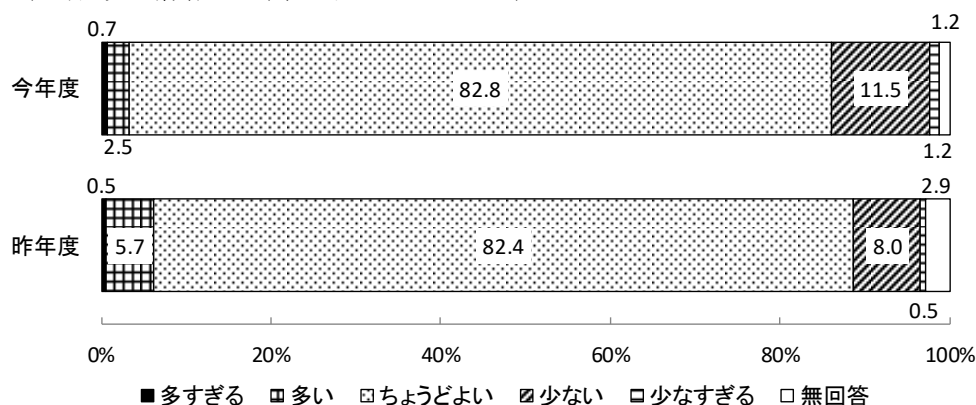
(○はそれぞれ1つ)

(1) 発行回数 (年4回)



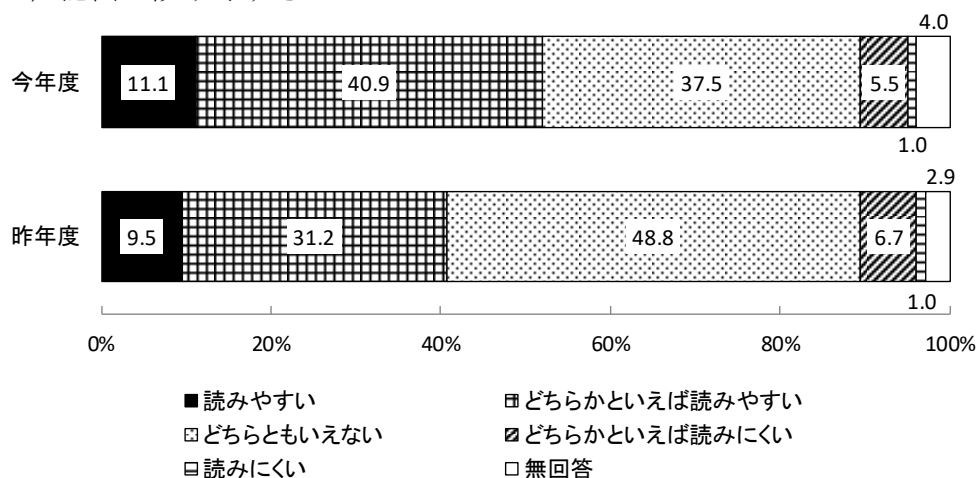
多い (計)	少ない (計)
2.9	10.9

(2) 各号の情報量 (年4回：8ページ)



多い (計)	少ない (計)
3.2	12.7

(3) 誌面の読みやすさ



読みやすい (計)	読みにくい (計)
52.0	6.5

40.7	7.7
------	-----

Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が85.4%と最も高く、情報量についても「ちょうどよい」が82.8%と最も高くなっている。昨年度と比較すると、発行回数が「少ない」と「少なすぎる」合わせた『少ない(計)』は2.9ポイント上昇、情報量が「少ない」と「少なすぎる」を合わせた『少ない(計)』は4.2ポイント上昇となっている。また、読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい(計)』が52.0%となり、昨年度と比較して11.3ポイント上昇している。

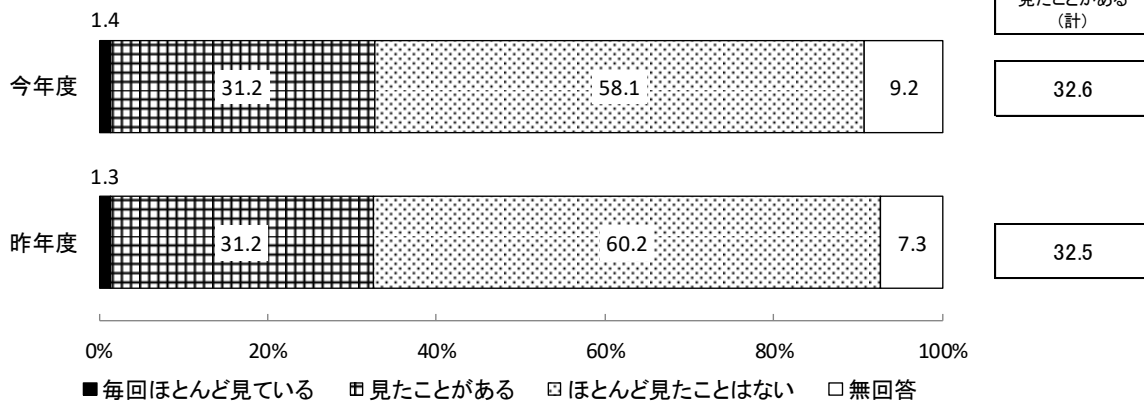
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

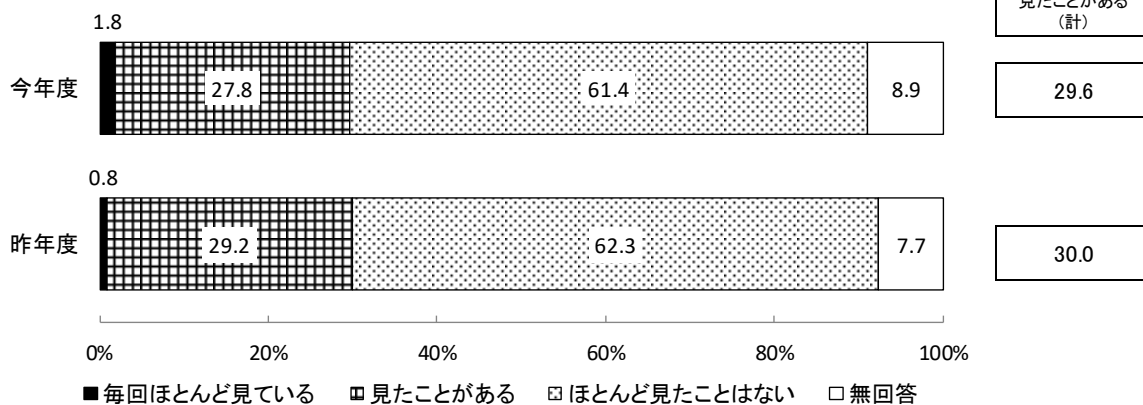
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。1、2、3から選んでください。

(○はそれぞれ1つ)

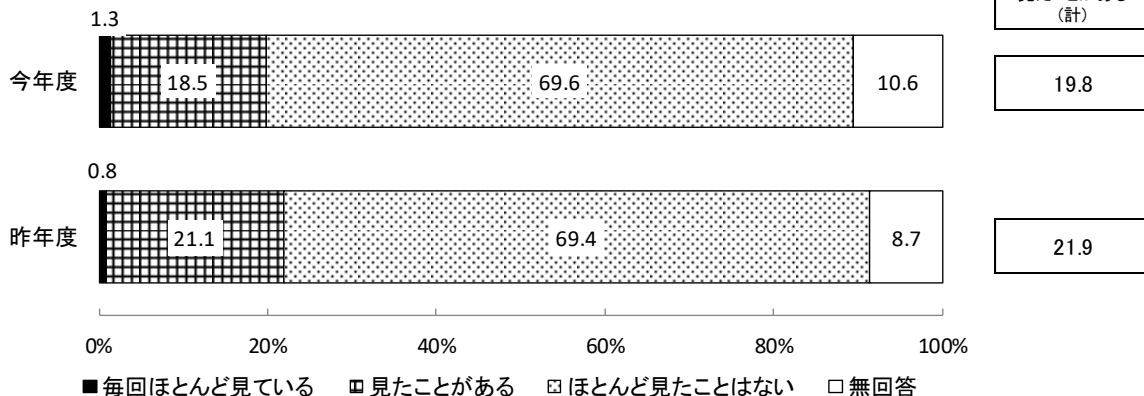
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）



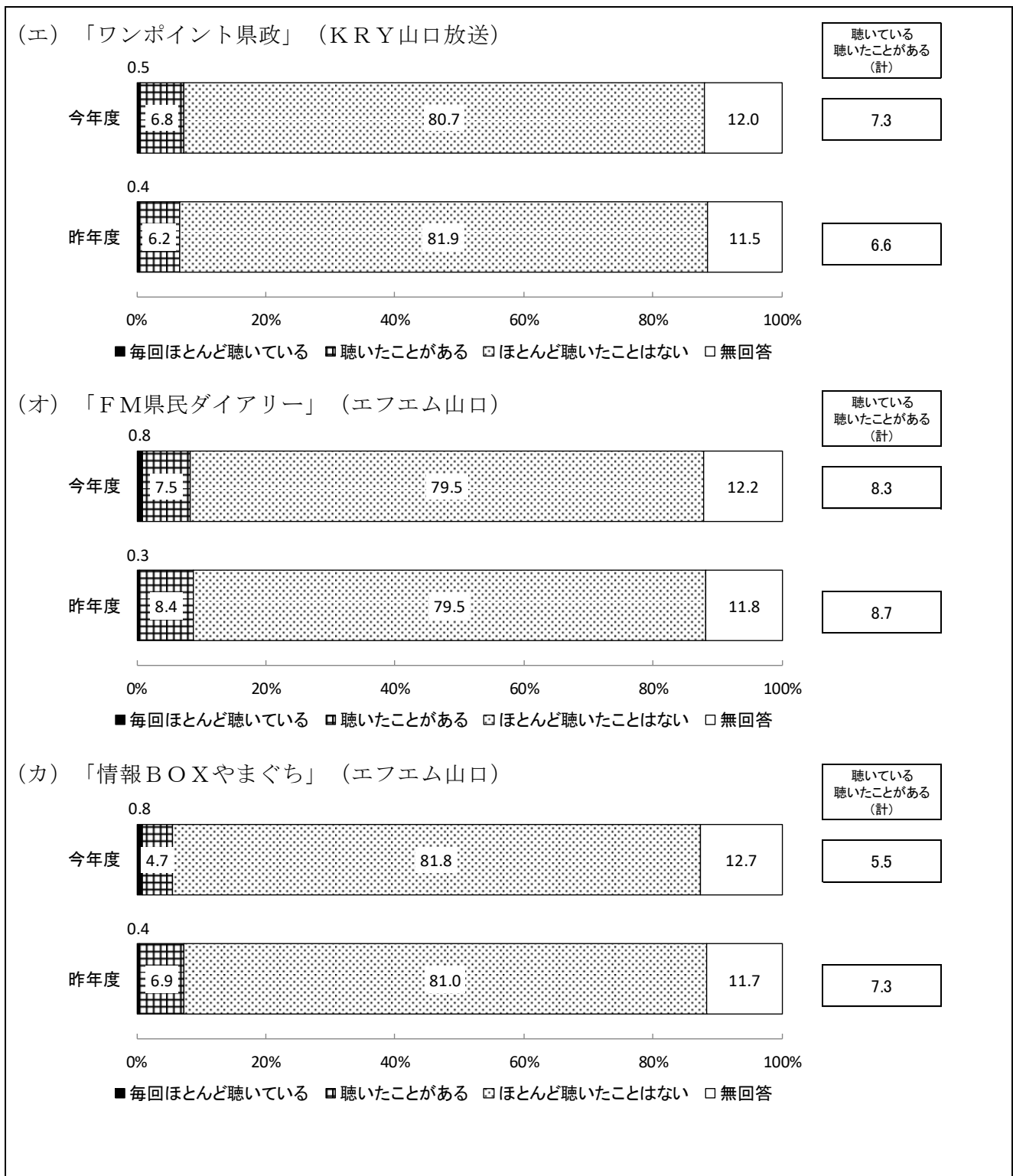
(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）



(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）



県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある（計）』は、「元気創出！やまぐち」が32.6%、「大好き！やまぐち」が29.6%、「イキイキ！山口」が19.8%となっている。昨年度と比較すると、「イキイキ！山口」は2.1ポイント低下している。

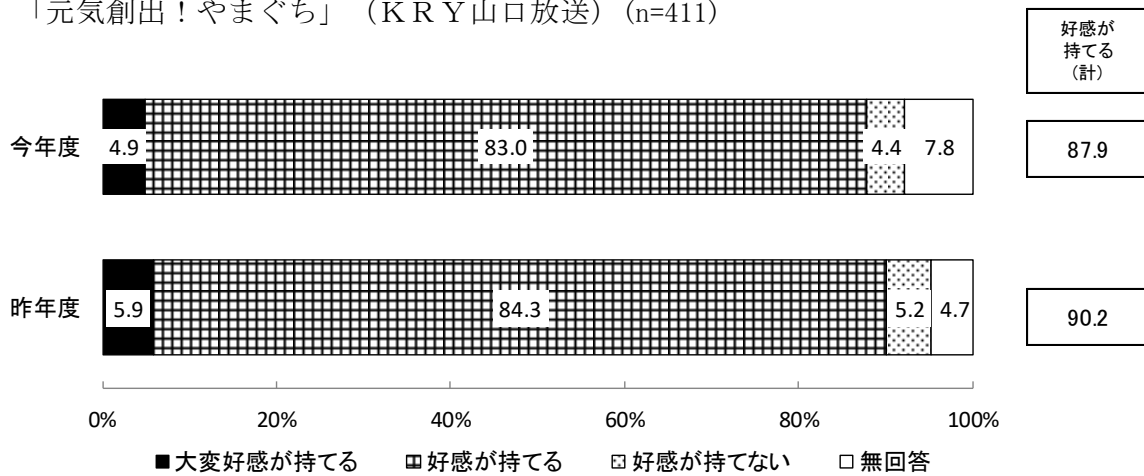


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』は、「ワンポイント県政」が7.3%、「FM県民ダイアリー」が8.3%、「情報BOXやまぐち」が5.5%となっており、昨年度と同程度で推移している。

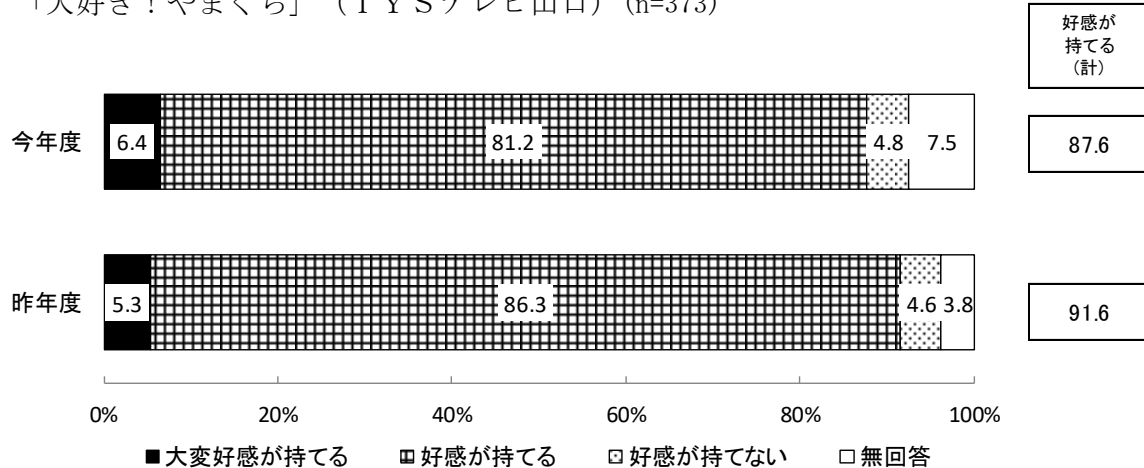
**Q3-4** 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象をア、イ、ウから選んでください。（○はそれぞれ1つ）

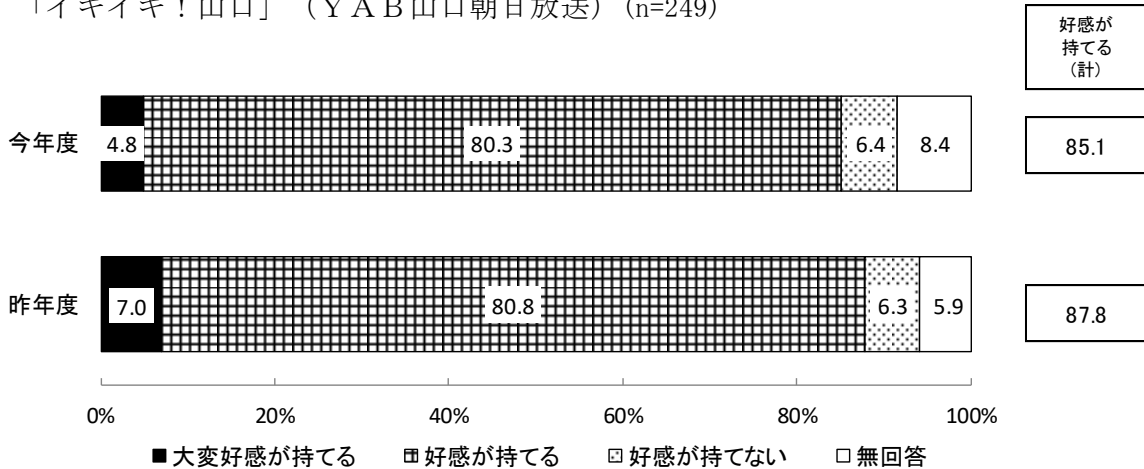
(ア) 「元気創出！やまぐち」（KRY山口放送）（n=411）



(イ) 「大好き！やまぐち」（TYSテレビ山口）（n=373）

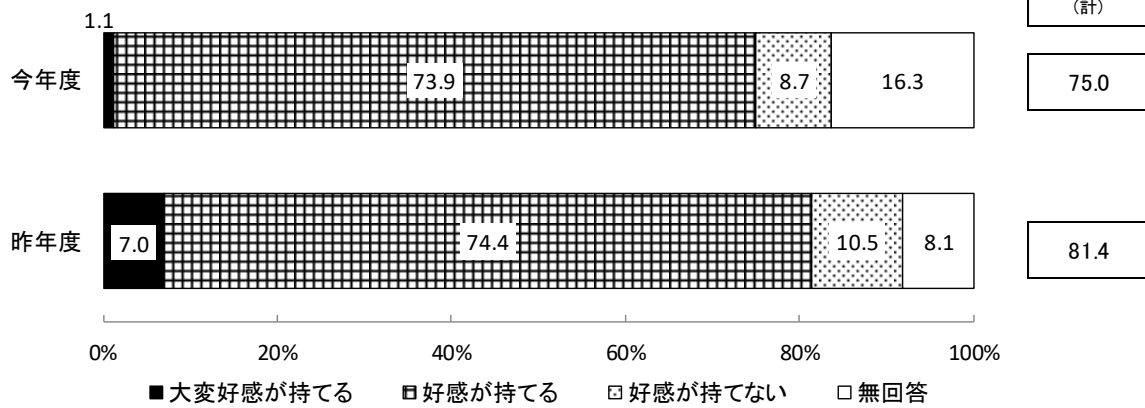


(ウ) 「イキイキ！山口」（YAB山口朝日放送）（n=249）

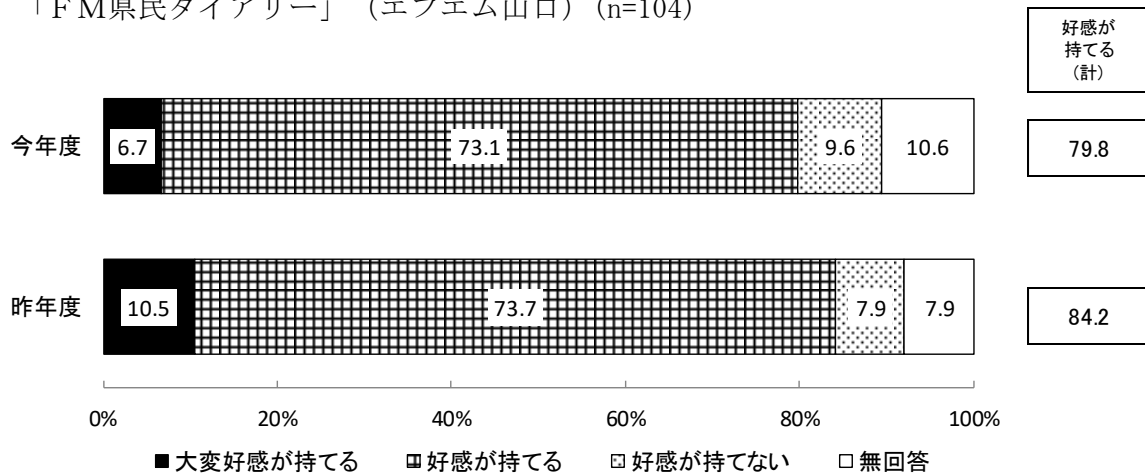


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』がいずれも8割台となっており、昨年度より2~4ポイント低下している。

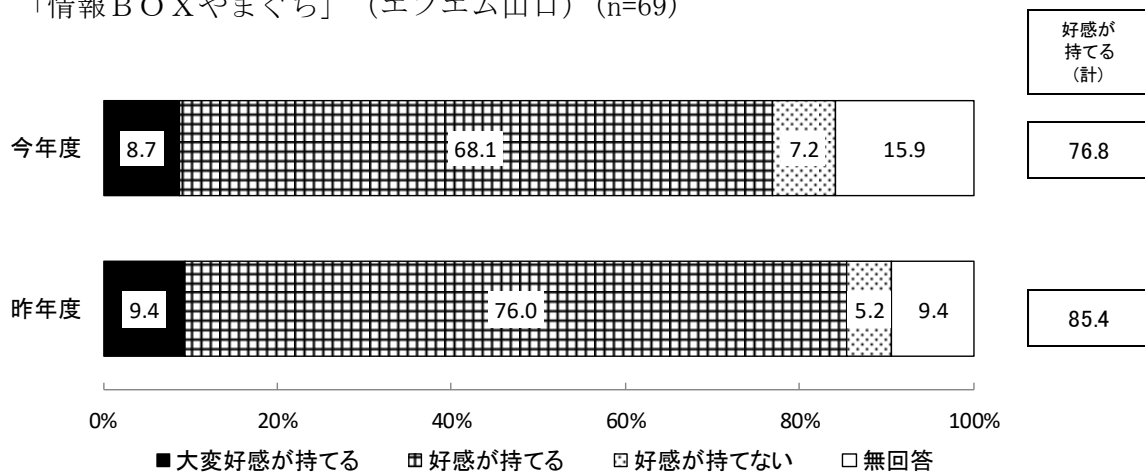
(エ) 「ワンポイント県政」(K R Y山口放送) (n=92)



(オ) 「FM県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=104)



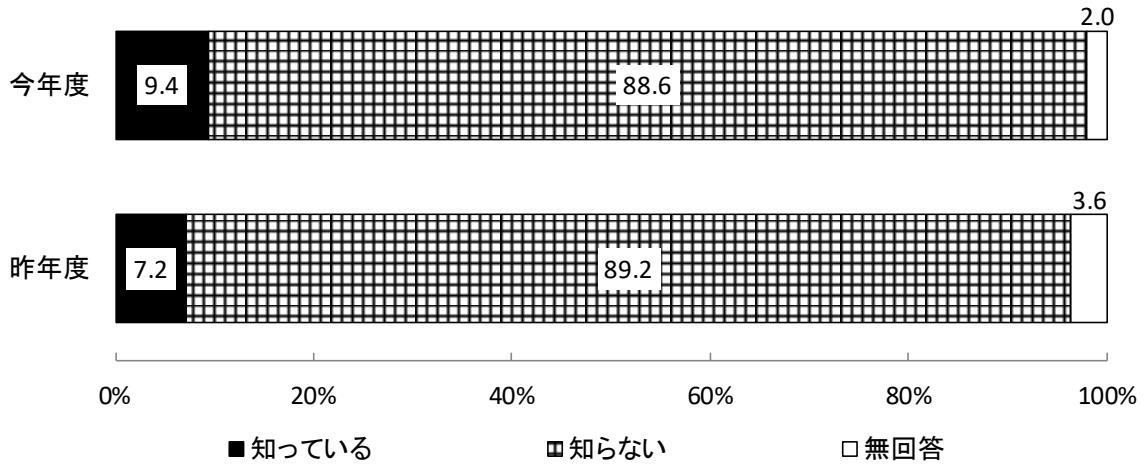
(カ) 「情報BOXやまぐち」(エフエム山口) (n=69)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』がいずれも7割台となっている。昨年度と比較すると、「ワンポイント県政」は6.4ポイント、「FM県民ダイアリー」は4.4ポイント、「情報BOXやまぐち」は8.6ポイントそれぞれ低下している。

3-5. 県の広報展開の認知度

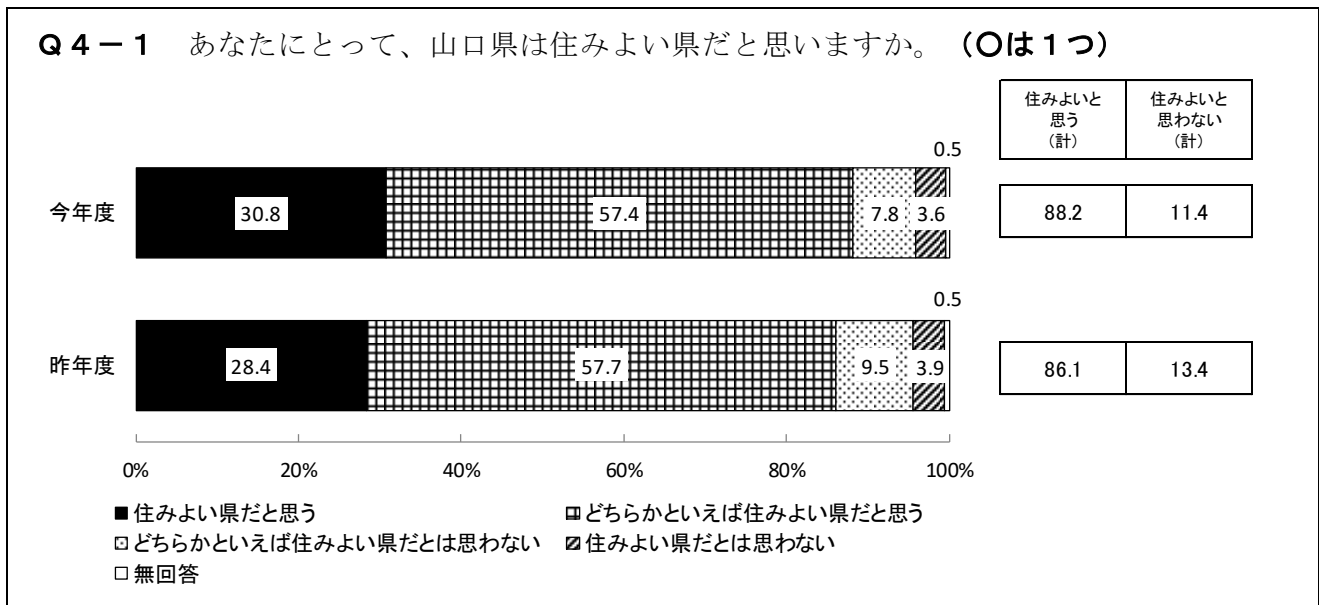
Q3-5 県では、本県の多彩な魅力や施策等の情報を、SNS等も活用し、ターゲットとなる方々に着実に届ける広報を展開しています。あなたは、このことをご存じですか。（〇は1つ）



県の広報展開の認知度について、「知っている」が9.4%、「知らない」が88.6%となり、知らない人の割合が9割弱を占めている。また、昨年度と比較すると、「知っている」は2.2ポイント上昇している。

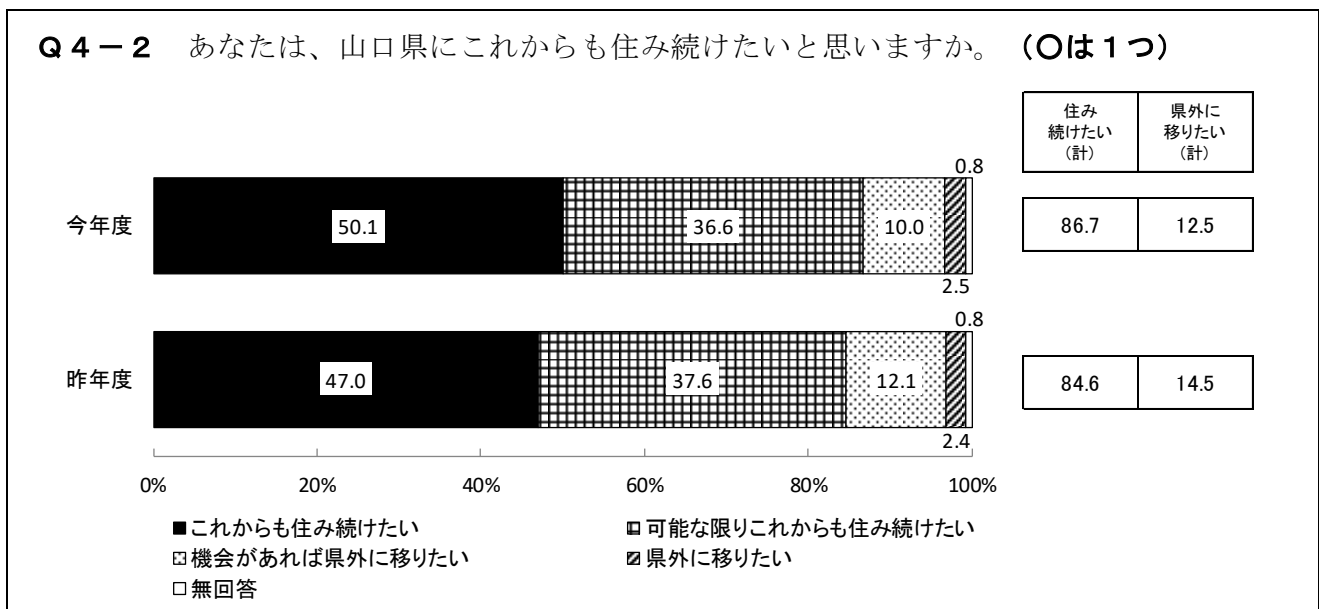
## 4. 県の取組に対する実感

### 4-1. 山口県の住みよさ



山口県の住みよさについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う (計)』が 88.2% となっており、昨年度と比較すると、2.1 ポイント上昇している。

### 4-2. 今後の山口県での居留意向

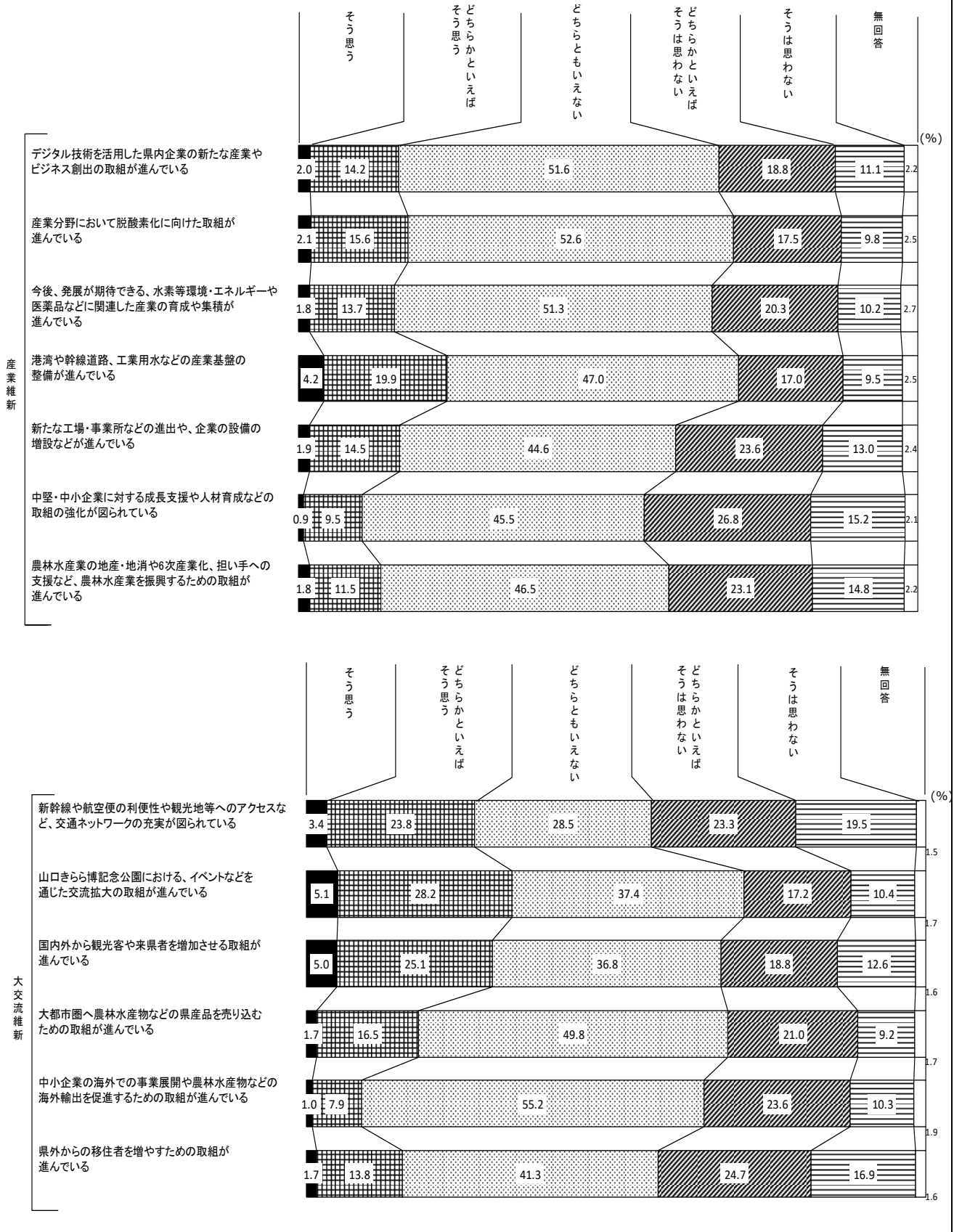


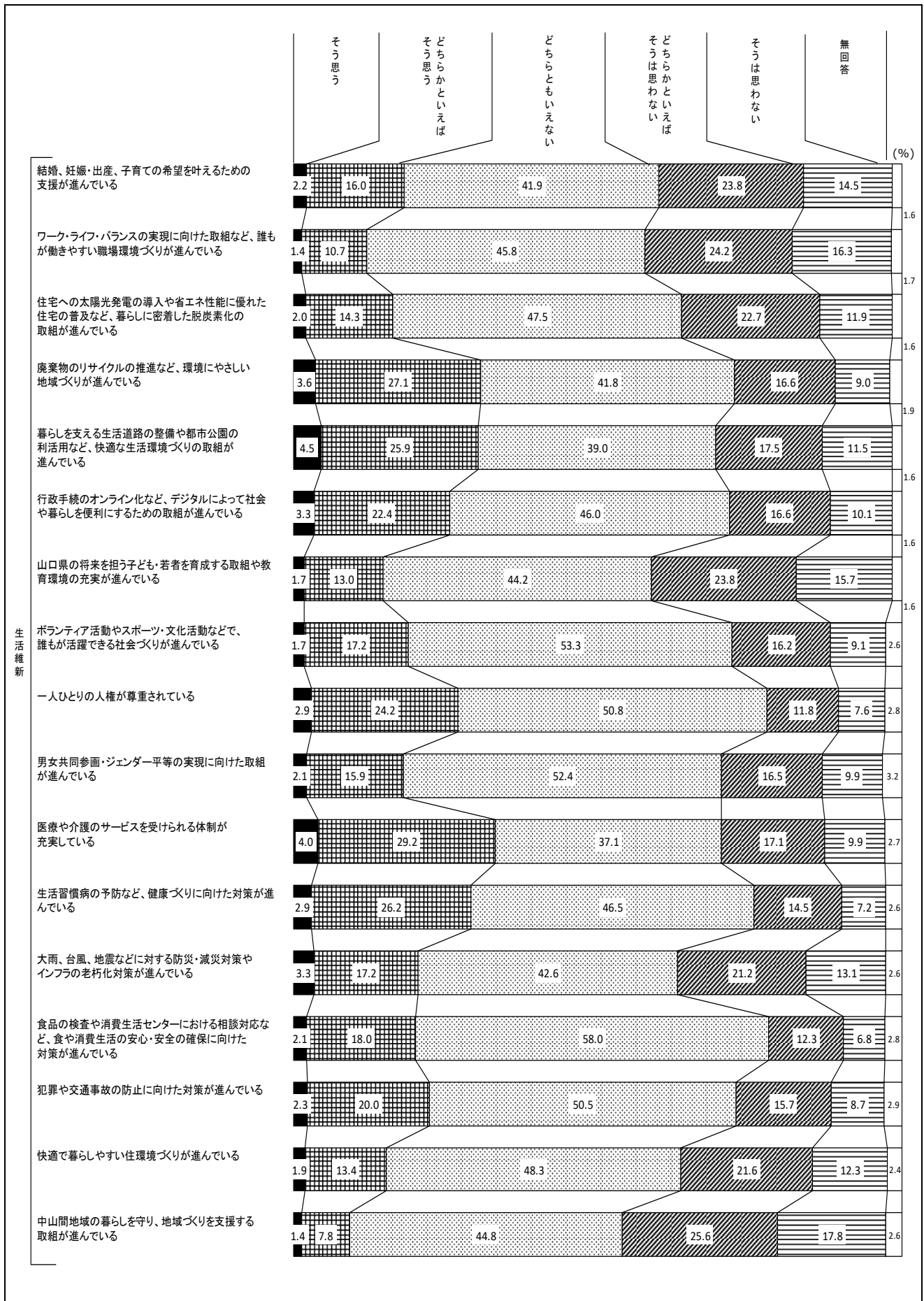
今後の山口県での居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 86.7% となっており、昨年度と比較すると、2.1 ポイント上昇している。

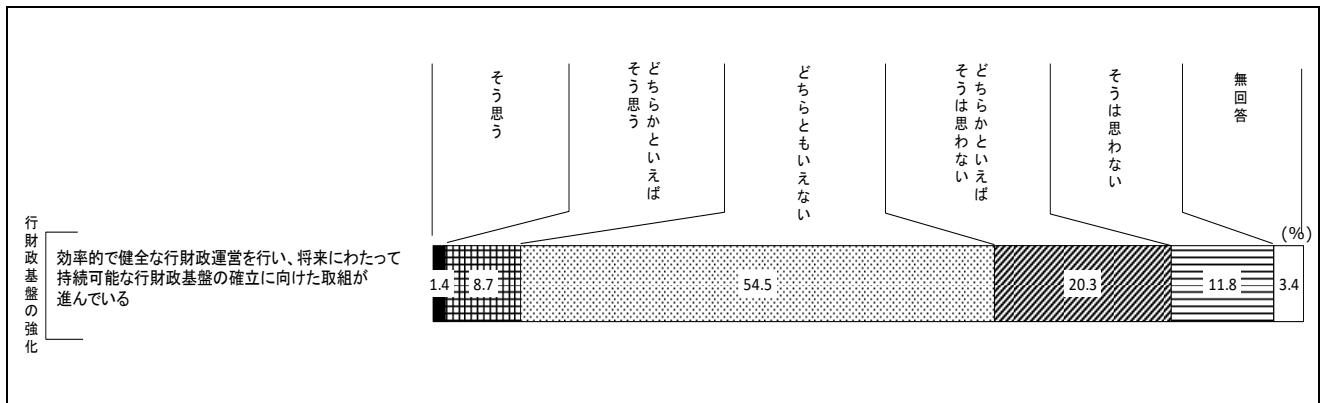


4-3. 県の取組に対する実感

Q4-3 「やまぐち未来維新プラン」では20のプロジェクトを掲げ重点的に施策を推進しています。これに関する県の取組について、あなたの実感についておたずねします。(〇はそれぞれ1つつ)







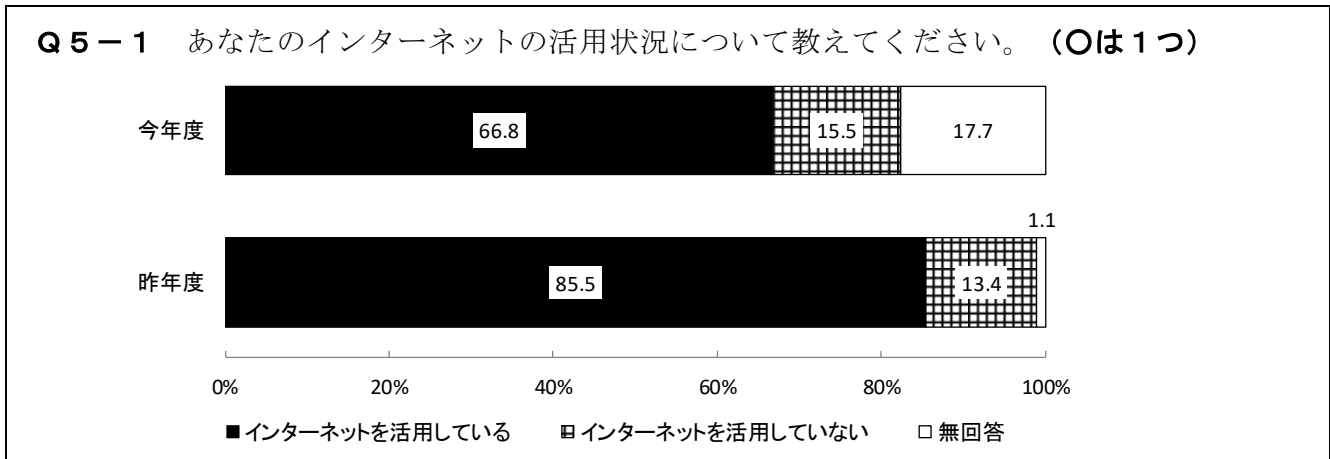
県の実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、【大交流維新】分野の「山口きらら博記念公園における、イベントなどを通じた交流拡大の取組が進んでいる」が 33.3%、【生活維新】分野の「医療や介護のサービスを受けられる体制が充実している」が 33.2%、【生活維新】分野の「廃棄物のリサイクルの推進など、環境にやさしい地域づくりが進んでいる」が 30.7%、【生活維新】分野の「暮らしを支える生活道路の整備や都市公園の利活用など、快適な生活環境づくりの取組が進んでいる」が 30.4%などで高くなっている。

一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない（計）』の割合は、【生活維新】分野の「中山間地域の暮らしを守り、地域づくりを支援する取組が進んでいる」が 43.4%、【大交流維新】分野の「新幹線や航空便の利便性や観光地等へのアクセスなど、交通ネットワークの充実が図られている」が 42.8%、【産業維新】分野の「中堅・中小企業に対する成長支援や人材育成などの取組の強化が図られている」が 42.0%などで高くなっている。

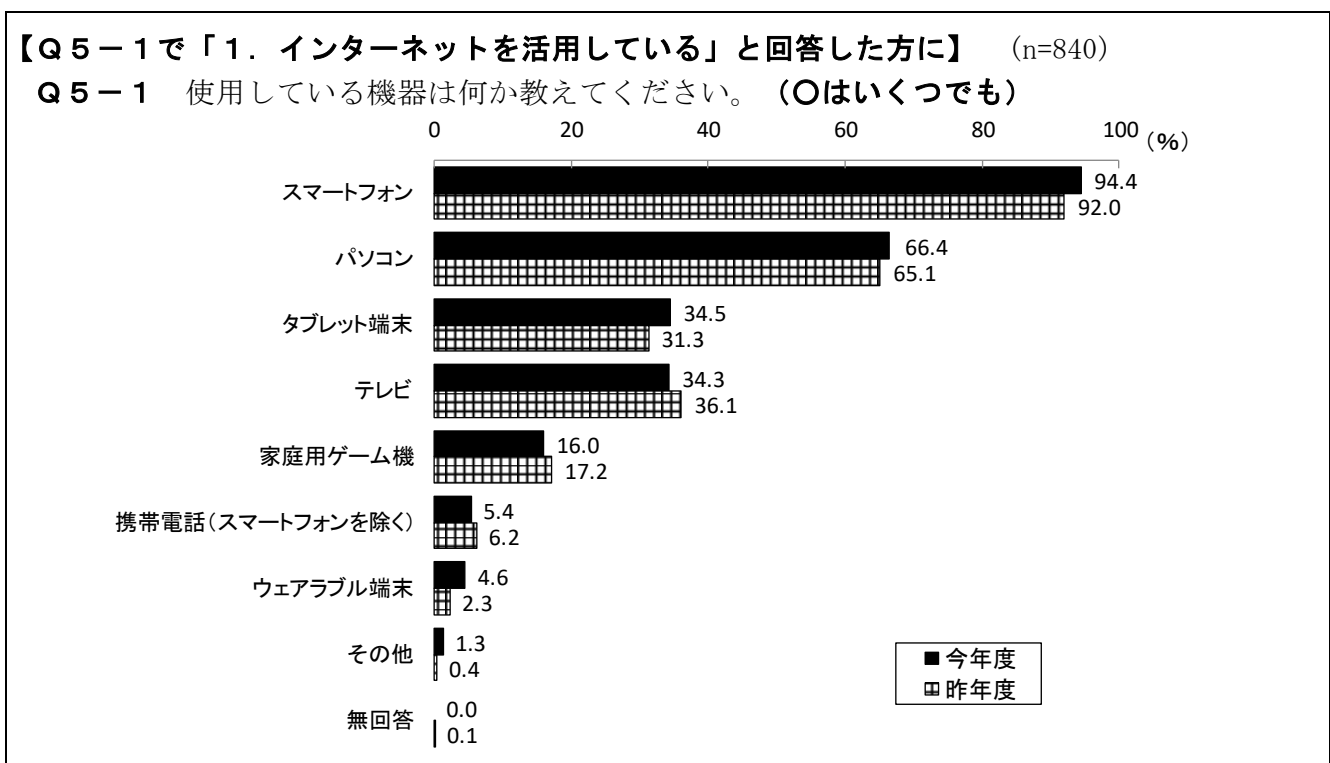
『その他、県が取組を進めている16項目』

5. デジタル化について

5-1. インターネットの活用状況

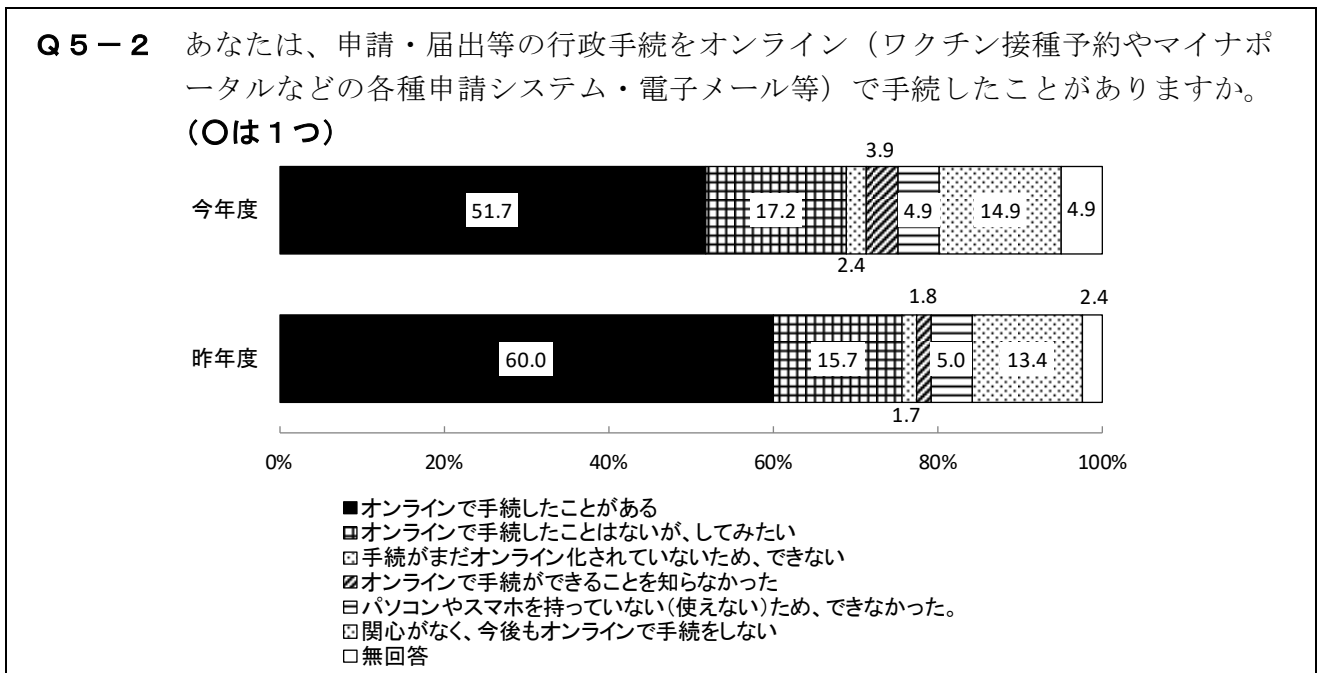


インターネットの活用状況について、「インターネットを活用している」が66.8%、「インターネットを活用していない」が15.5%となっている。昨年度と比較すると、「インターネットを活用している」は18.7ポイント低下し、「インターネットを活用していない」は2.1ポイント上昇している。



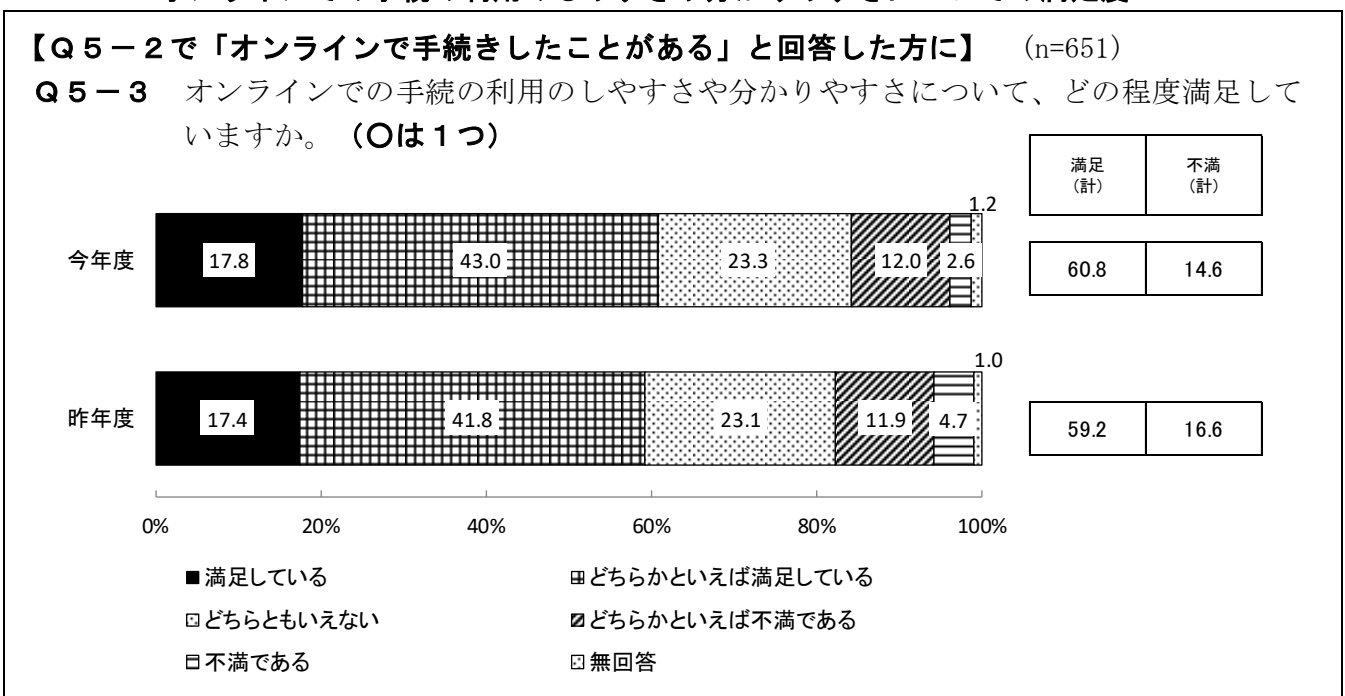
Q5-1で「インターネットを活用している」と回答した方に、使用している機器について質問すると、「スマートフォン」が94.4%と最も高く、次いで「パソコン」が66.4%、「タブレット端末」が34.5%、「テレビ」が34.3%、「家庭用ゲーム機」が16.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「タブレット端末」は3.2ポイント、「スマートフォン」は2.4ポイントそれぞれ上昇している。

5-2. 申請・届出等の行政手続のオンライン活用状況



申請・届出等の行政手続のオンライン利用状況について、「オンラインで手続したことがある」が51.7%、「オンラインで手続したことはないが、してみたい」が17.2%となっている。昨年度と比較すると、「オンラインで手続したことがある」は8.3ポイント低下し、「オンラインで手続ができることを知らなかった」は2.1ポイント上昇している。

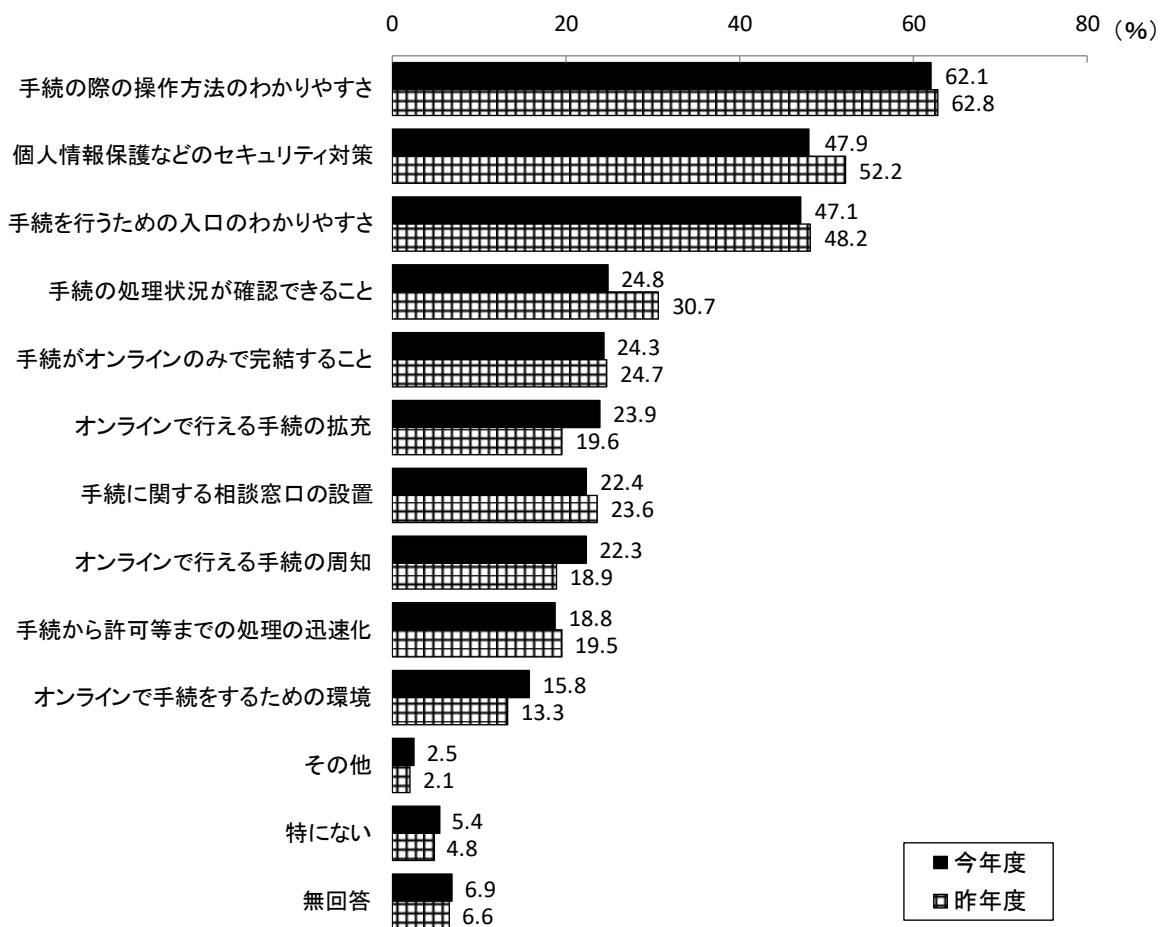
5-3. オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについての満足度



オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについて、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足 (計)』が60.8%、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満 (計)』が14.6%となっている。昨年度と比較すると、『満足 (計)』は同程度で推移し、『不満 (計)』は2.0ポイント低下している。

5-4. オンライン手続きの促進に必要なこと

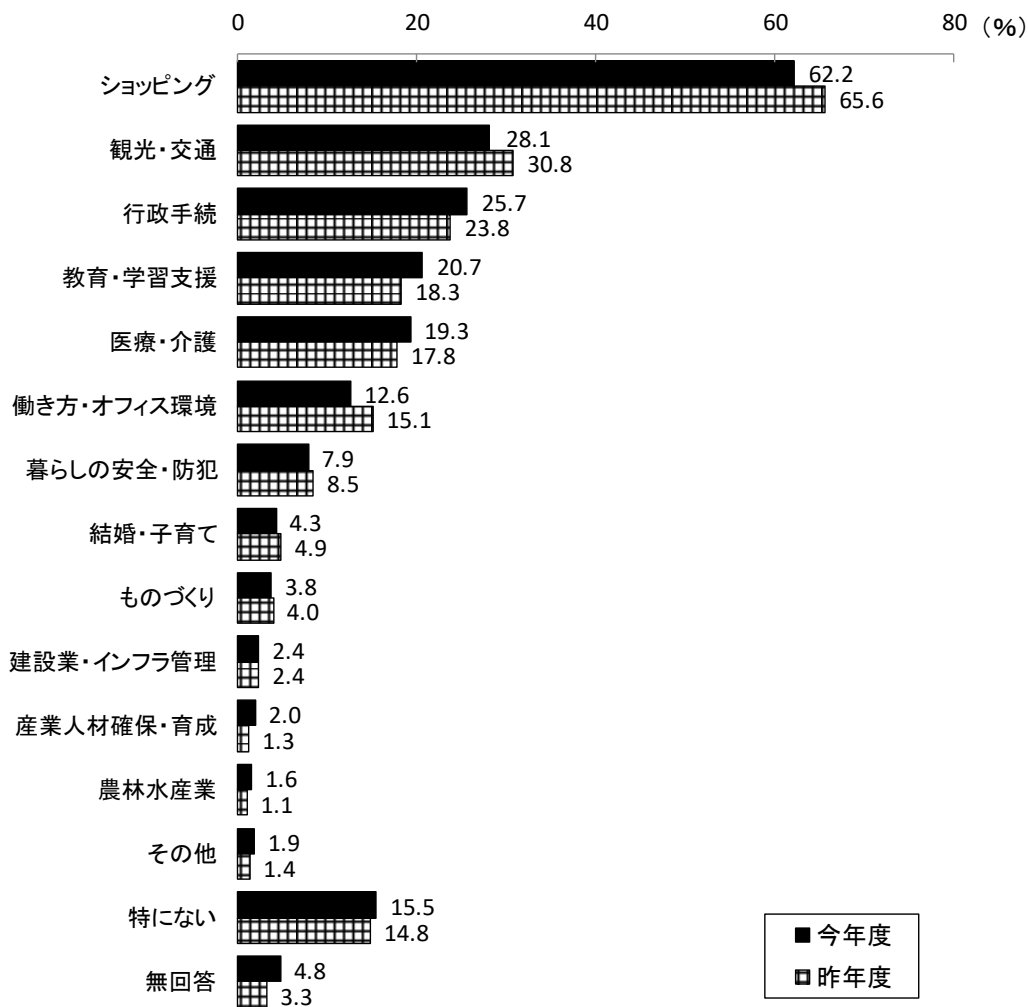
Q5-4 あなたは、オンラインでの手続きを促進するために、何が必要と考えますか。  
(○は1つ)



オンライン手続きの促進に必要なことについて、「手続きの際の操作方法のわかりやすさ」が 62.1%と最も高く、次いで「個人情報保護などのセキュリティ対策」が 47.9%、「手続きを行うための入口のわかりやすさ」が 47.1%、「手続きの処理状況が確認できること」が 24.8%、「手続きがオンラインのみで完結すること」が 24.3%の順となっている。昨年度と比較すると、上位項目はすべて低下している。

5-5. デジタル技術の活用で便利になったと思う分野

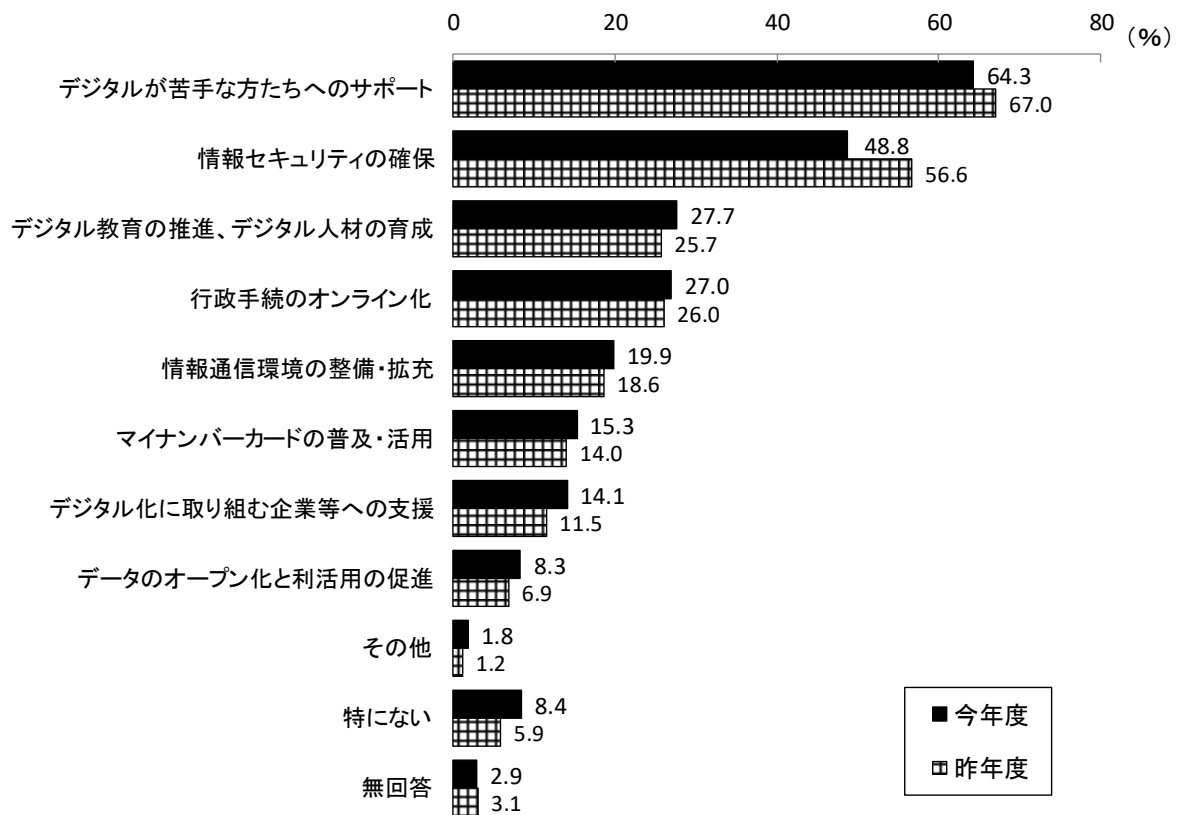
Q5-5 あなたは、どのような分野において、デジタル技術の活用で便利になったと思いますか。(〇はいくつでも)



デジタル技術の活用で便利になったと思う分野について、「ショッピング」が 62.2%と最も高く、次いで「観光・交通」が 28.1%、「行政手続」が 25.7%、「教育・学習支援」が 20.7%、「医療・介護」が 19.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「教育・学習支援」は 2.4 ポイント上昇し、「ショッピング」は 3.4 ポイント、「観光・交通」は 2.7 ポイントそれぞれ低下している。

5-6. デジタル化が進むために必要な取組

Q5-6 本県でデジタル化が進むためには、どのような取組が必要と考えますか。  
(〇はいくつでも)



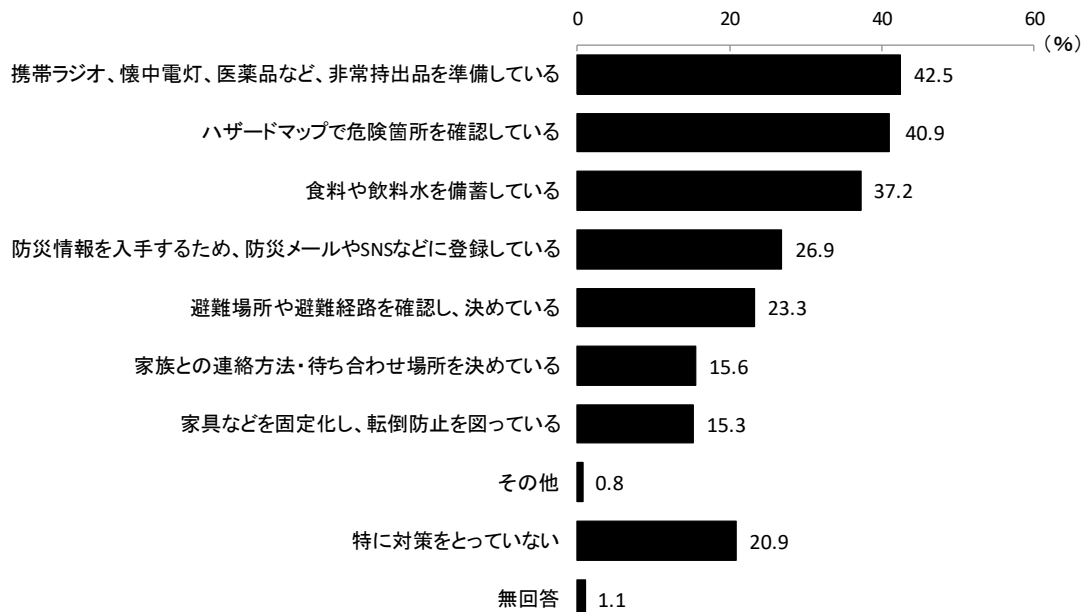
デジタル化が進むために必要な取組について、「デジタルが苦手な方たちへのサポート」が 64.3%と最も高く、次いで「情報セキュリティの確保」が 48.8%、「デジタル教育の推進、デジタル人材の育成」が 27.7%、「行政手続のオンライン化」が 27.0%、「情報通信環境の整備・拡充」が 19.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「デジタル化に取り組む企業等への支援」は 2.6 ポイント、「デジタル教育の推進、デジタル人材の育成」は 2.0 ポイントそれぞれ上昇し、「情報セキュリティの確保」は 7.8 ポイント、「デジタルが苦手な方たちへのサポート」は 2.7 ポイントそれぞれ低下している。



## 6. 防災・減災対策

## 6-1. 家庭での防災対策

Q6-1 あなたの家庭では、台風や地震などの災害に備え、どのような防災対策を行っていますか。(〇はいくつでも)

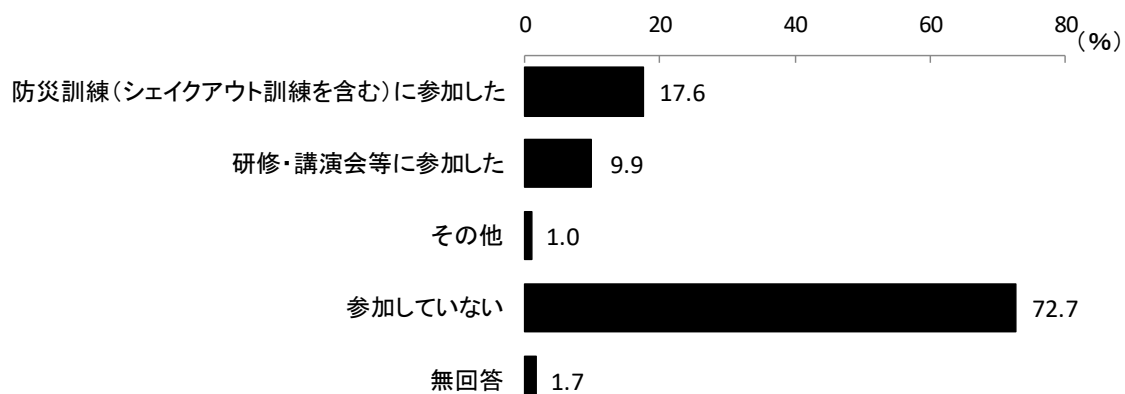


家庭での防災対策について、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など、非常持出品を準備している」が42.5%と最も高く、次いで「ハザードマップで危険箇所を確認している」が40.9%、「食料や飲料水を備蓄している」が37.2%の順となっている。

## 6-2. 過去1年間における地域や職場での防災活動への参加

Q6-2 あなたは、過去1年間に、お住いの地域や職場などでの防災活動（「シェイクアウト訓練」、防災訓練、研修・講演などへの参加）に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

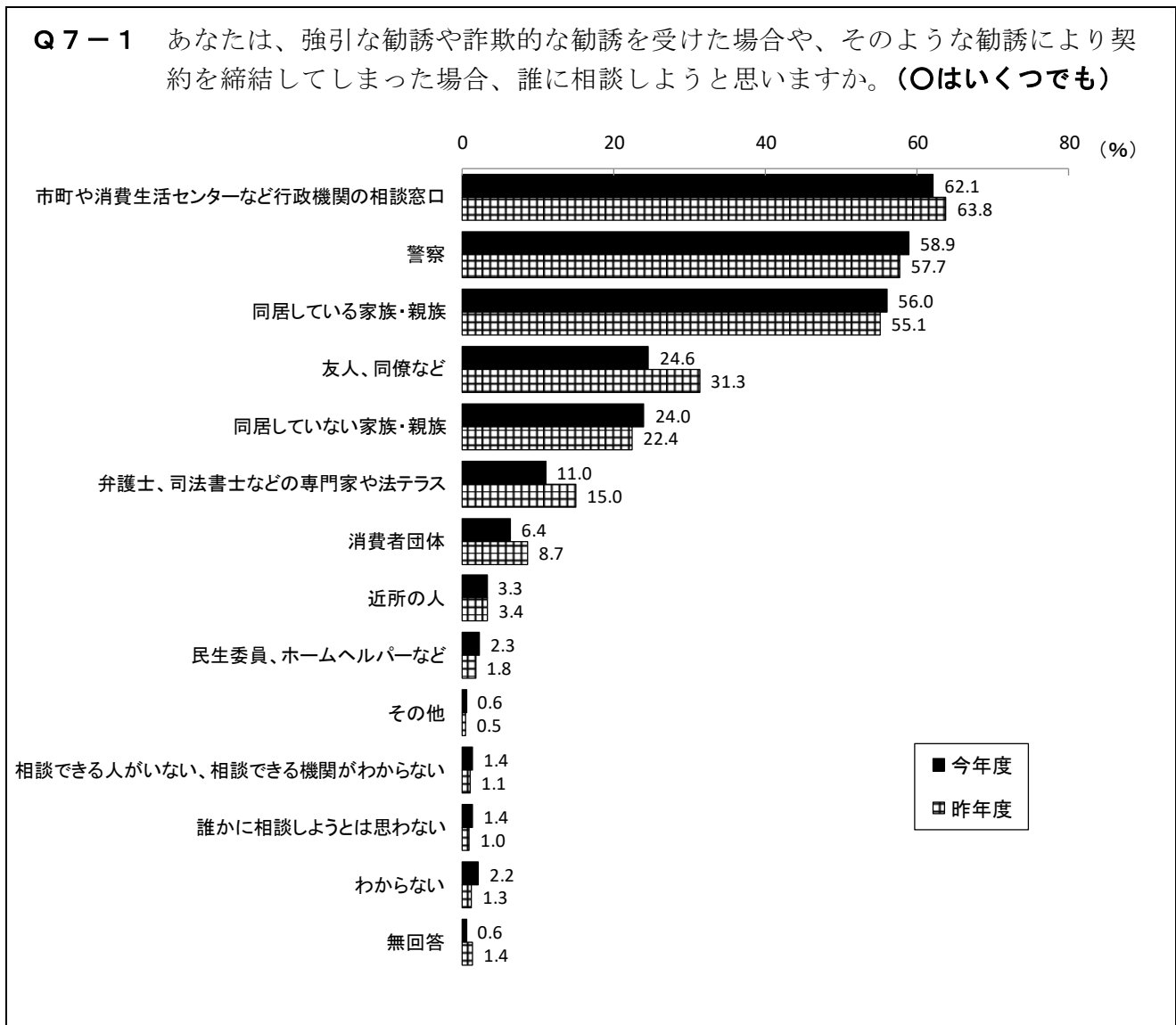
※「シェイクアウト訓練」とは、合図に併せ、「DROP!(まず低く!)」、「COVER!(頭を守り!)」、「HOLD ON!(動かない!)」の三つの行動をとる訓練のことをいう。



過去1年間における地域や職場での防災活動への参加について、「参加していない」が72.7%と最も高くなった。また、参加したものについては、「防災訓練（シェイクアウト訓練を含む）に参加した」が17.6%、「研修・講演会等に参加した」が9.9%の順となっている。

## 7. 消費生活に関することについて

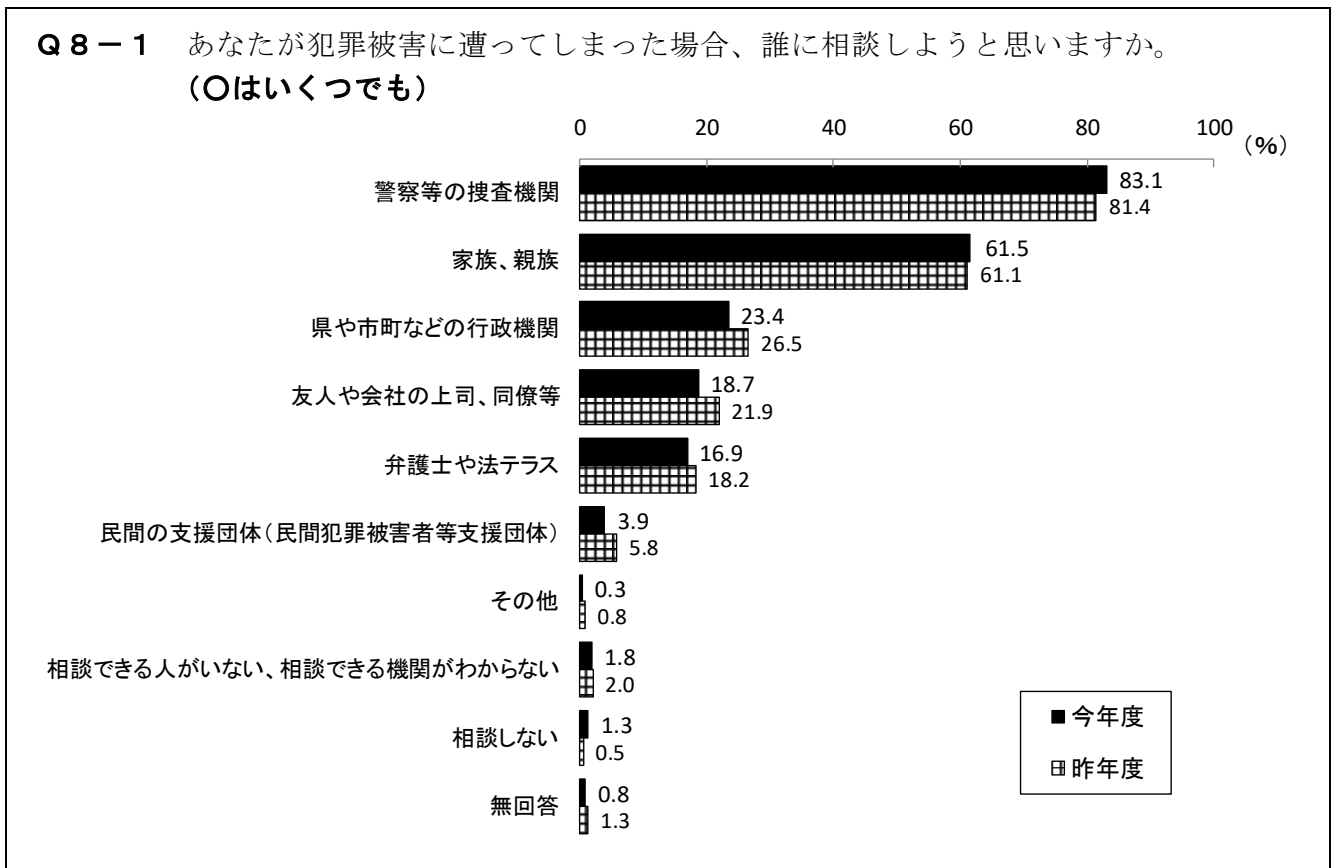
### 7-1. 被害を受けた時の相談相手



被害を受けた時の相談相手について、「市町や消費生活センターなどの行政機関の相談窓口」が 62.1%と最も高く、次いで「警察」が 58.9%、「同居している家族・親族」が 56.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「友人、同僚など」が 6.7 ポイント、「弁護士、司法書士などの専門家や法テラス」が 4.0 ポイント、「消費者団体」が 2.3 ポイントそれぞれ低下している。

## 8. 犯罪被害者等支援について

### 8-1. 犯罪被害に遭った場合の相談相手

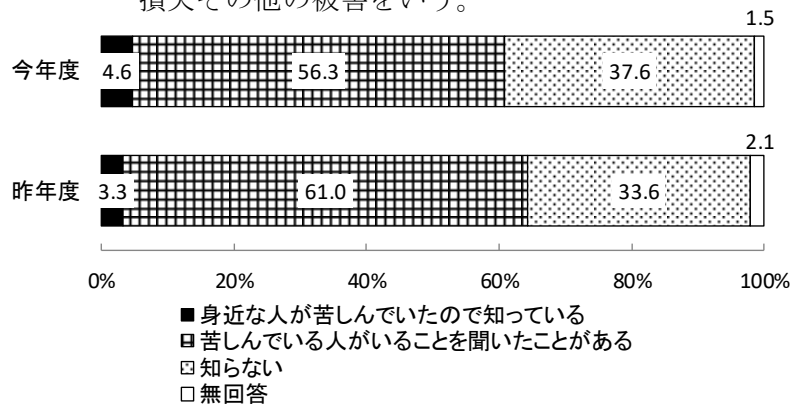


犯罪被害に遭った場合の相談相手について、「警察等の捜査機関」が 83.1%と最も高く、次いで「家族・親族」が 61.5%、「県や市町などの行政機関」が 23.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「友人や会社の上司、同僚等」は 3.2 ポイント、「県や市町などの行政機関」は 3.1 ポイントそれぞれ低下している。

### 8-2. 「二次的被害」の認知状況

**Q 8-2** あなたは、犯罪被害に遭われた方やその家族又は遺族が「二次的被害」※により苦しんでいる実情があることを知っていますか。（○は1つ）

※二次的被害：犯罪等による直接的な被害を受けた後に、犯罪被害者等に対する配慮に欠ける言動、誹謗中傷、過剰な取材等により、犯罪被害者等が受ける精神的な苦痛、身体の不調、名誉の毀損、私生活の平穩の侵害、経済的な損失その他の被害をいう。

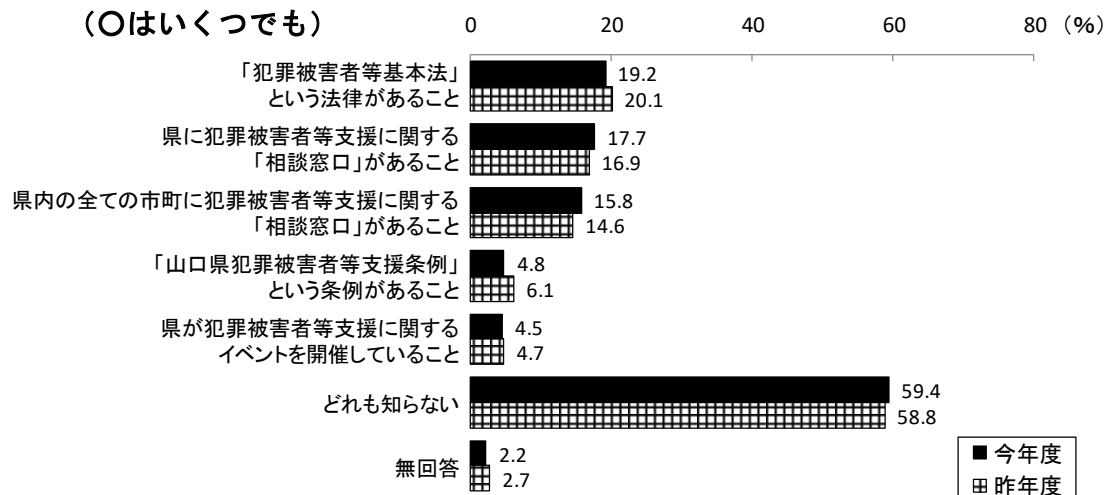


「二次的被害」の認知状況について、「身近な人が苦しんでいたの知っている」が4.6%、「苦しんでいる人がいることを聞いたことがある」が56.3%、「知らない」が37.6%となっている。昨年度と比較すると、「苦しんでいる人がいることを聞いたことがある」は4.7ポイント低下し、「知らない」は4.0ポイント上昇している。

### 8-3. 犯罪被害者等支援に関するものの認知状況

**Q 8-3** あなたは、次の犯罪被害者等支援に関するものを知っていますか。

（○はいくつでも）

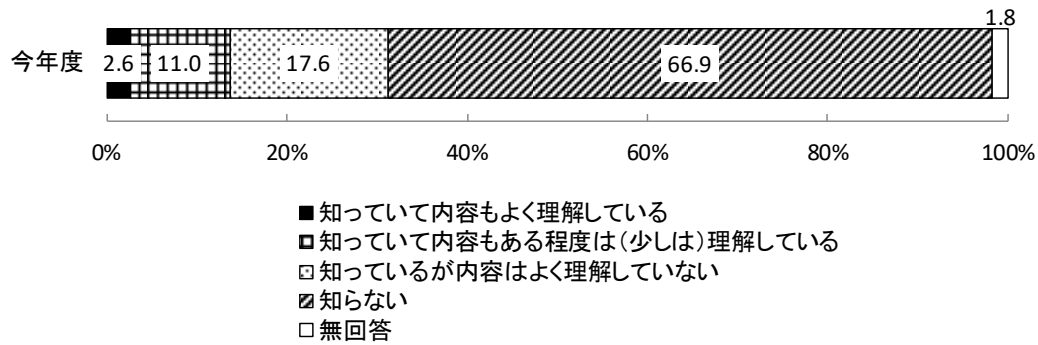


犯罪被害者等支援に関するものの認知状況について、「どれも知らない」が59.4%と最も高くなった。また、知っているものについては、「「犯罪被害者等基本法」という法律があること」が19.2%、「県に犯罪被害者等支援に関する「相談窓口」があること」が17.7%の順となっている。昨年度と比較しても、差はみられなかった。

## 9. 人権について

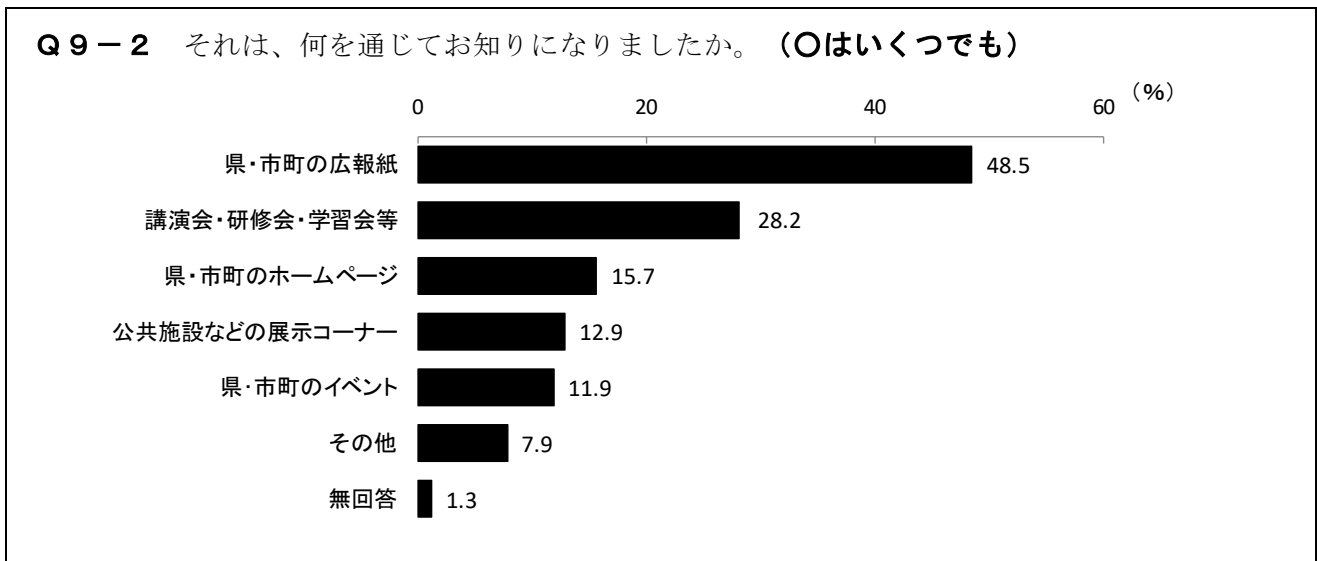
## 9-1. 「山口県人権推進指針」の認知度

**Q9-1** 山口県では、「山口県人権推進指針」を策定し、人権に関する諸施策を総合的に推進しています。あなたは、この「山口県人権推進指針」を知っていますか。  
(〇は1つ)



「山口県人権推進指針」の認知度について、「知っていて内容もよく理解している」が2.6%、「知っていて内容もある程度は(少しは)理解している」が11.0%、「知っているが内容はよく理解していない」が17.6%、「知らない」が66.9%となっている。

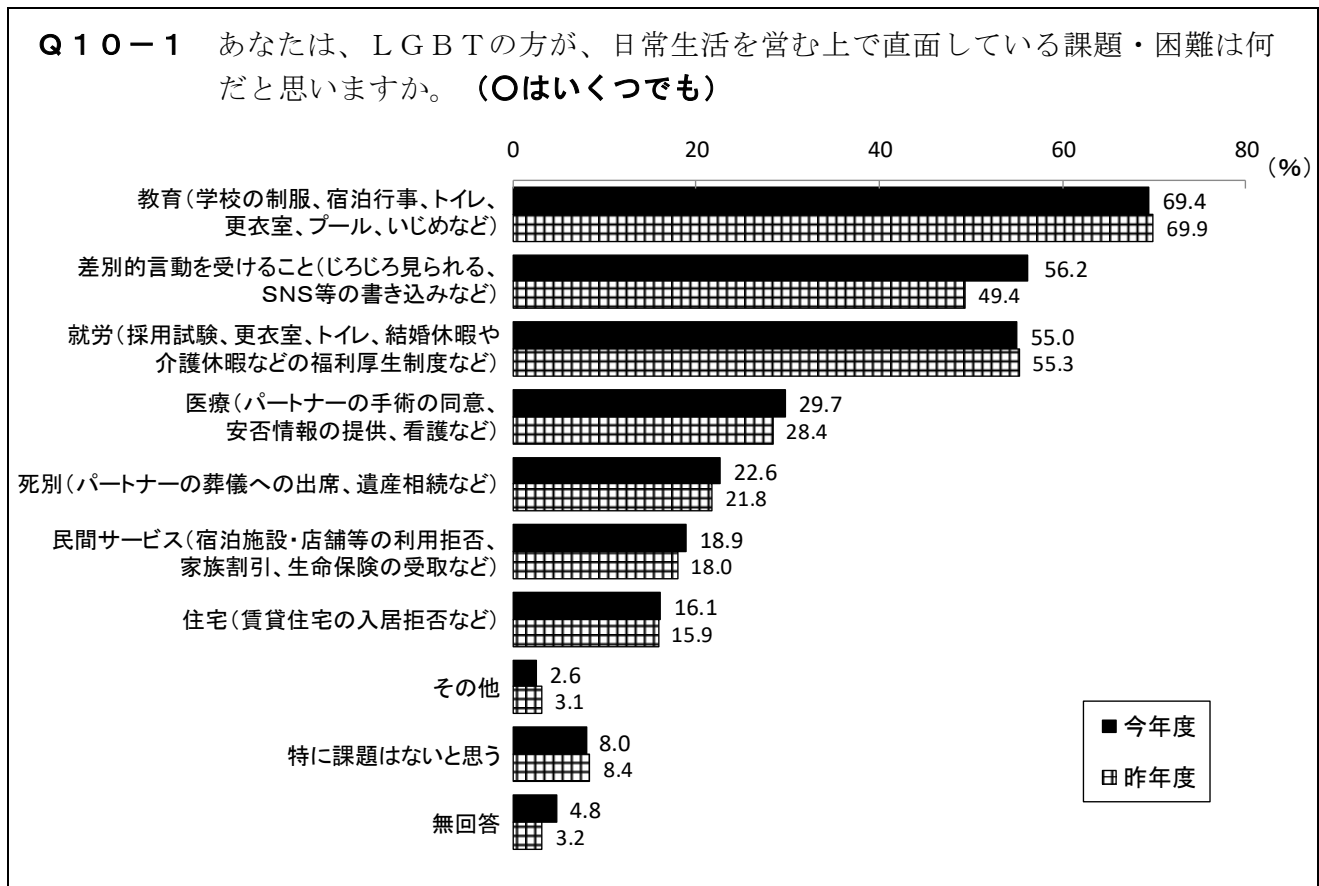
## 9-2. 「山口県人権推進指針」に関する知識や情報の収集媒体



「山口県人権推進指針」に関する知識や情報の収集媒体について、「県・市町の広報紙」が48.5%と最も高く、次いで「講演会・研修会・学習会等」が28.2%、「県・市町のホームページ」が15.7%の順となっている。

## 10. 性の多様性について

### 10-1. LGBTの方が日常生活で直面する課題・困難

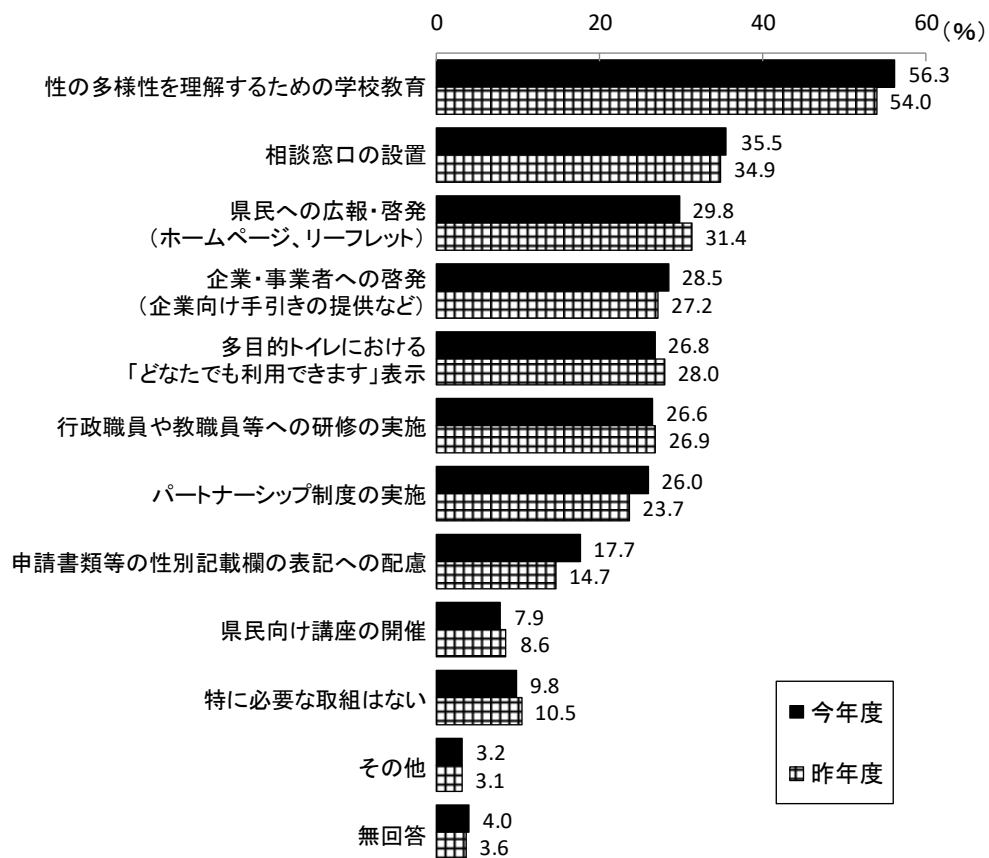


LGBTの方が日常生活で直面する課題・困難について、「教育（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール、いじめなど）」が69.4%も高く、次いで「差別的言動を受けること（じろじろ見られる、SNS等の書き込みなど）」が56.2%、「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度など）」が55.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「差別的言動を受けること（じろじろ見られる、SNS等の書き込みなど）」が6.8ポイント上昇している。



10-2. 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要な取組

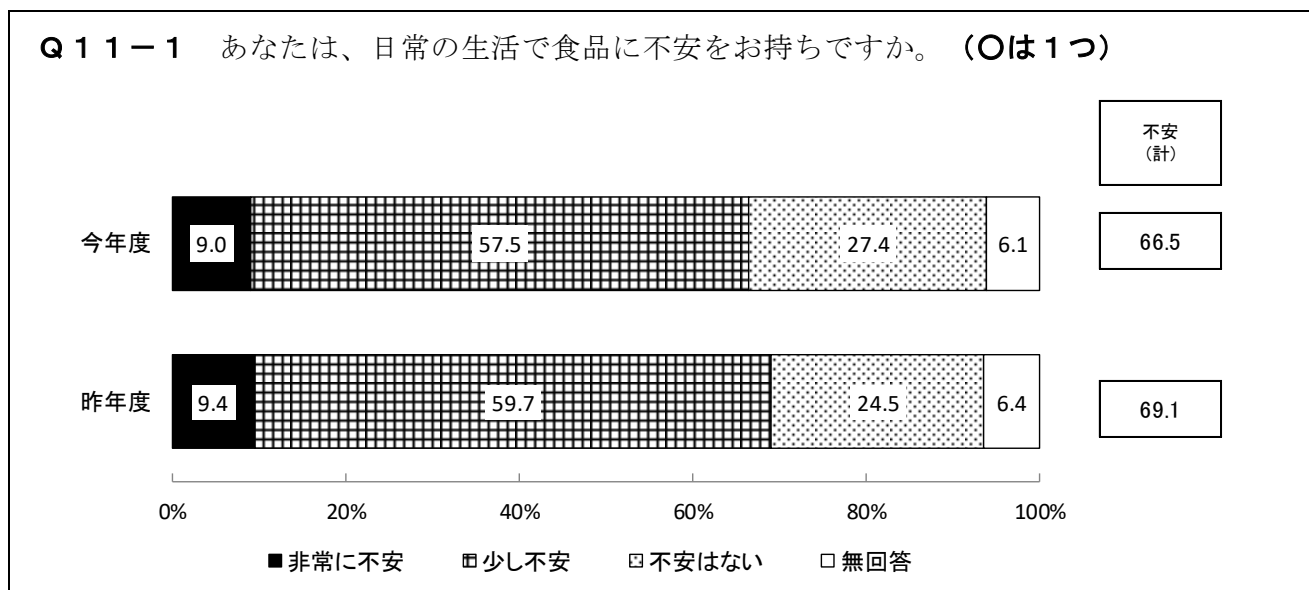
Q10-2 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要だと思う取組を選んでください。（〇はいくつでも）



性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要な取組について、「性の多様性を理解するための学校教育」が56.3%と最も高く、次いで「相談窓口の設置」が35.5%、「県民への広報・啓発（ホームページ、リーフレット）」が29.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「申請書類等の性別記載欄の表記への配慮」が3.0ポイント、「性の多様性を理解するための学校教育」、「パートナーシップ制度の実施」がともに2.3ポイントそれぞれ上昇している。

## 11. 食の安心・安全について

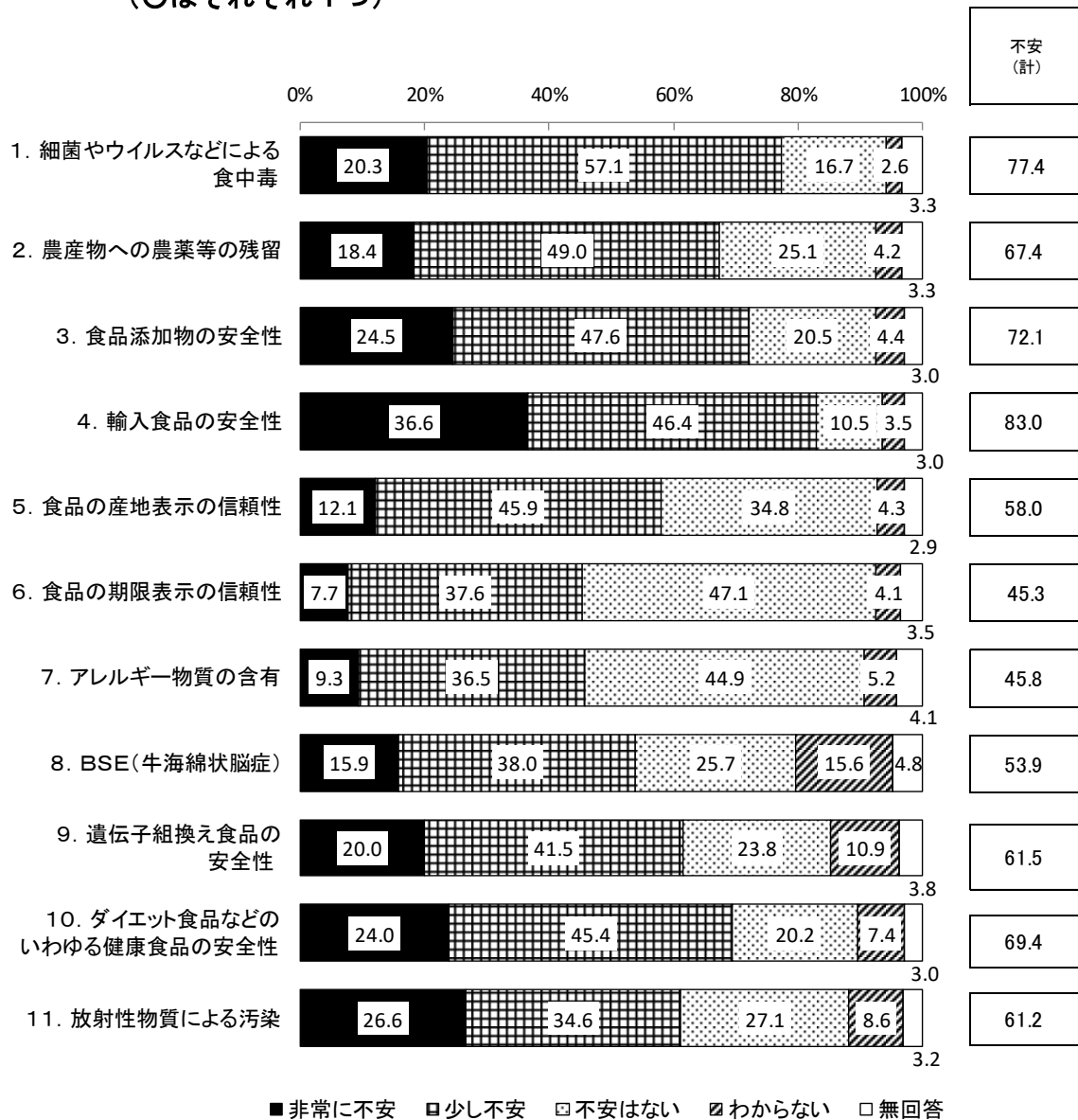
### 11-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は66.5%と6割半ばとなっている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は2.6ポイント低下している。

11-2. 食品について不安なこと

Q11-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。  
(○はそれぞれ1つ)

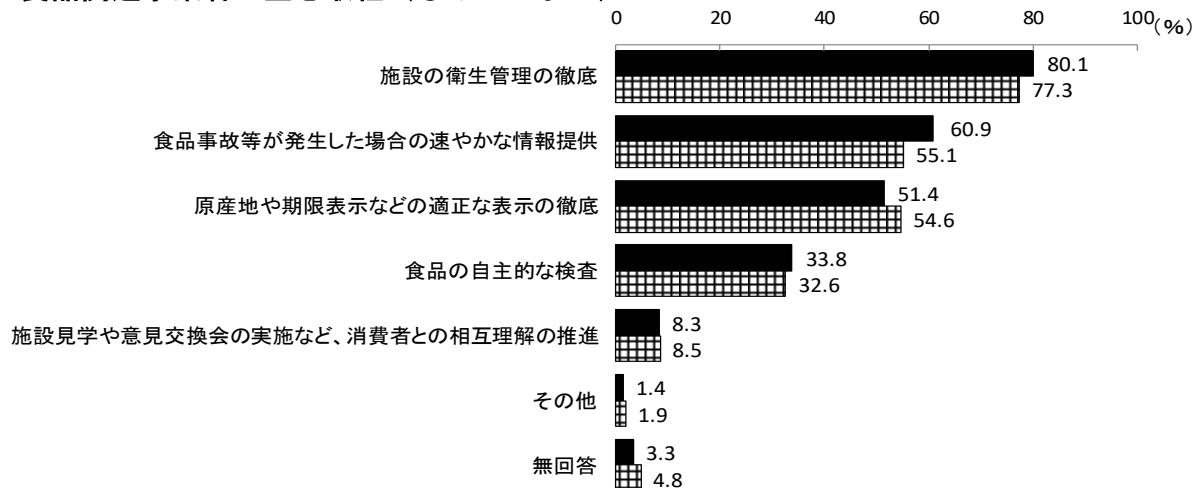


食品について不安なことについて、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安 (計)』の割合は、「4. 輸入食品の安全性」が83.0%、「1. 細菌やウイルスなどによる食中毒」が77.4%、「3. 食品添加物の安全性」が72.1%、「10. ダイエット食品などのいわゆる健康食品の安全性」が69.4%などで高くなっており、7割弱から8割強となっている。

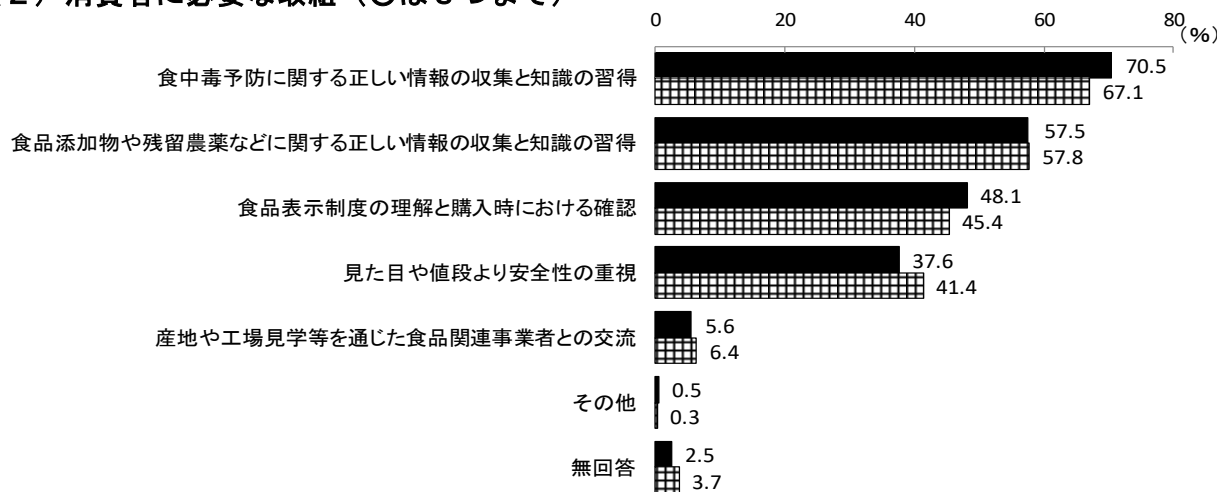
11-3. 県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組

Q11-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

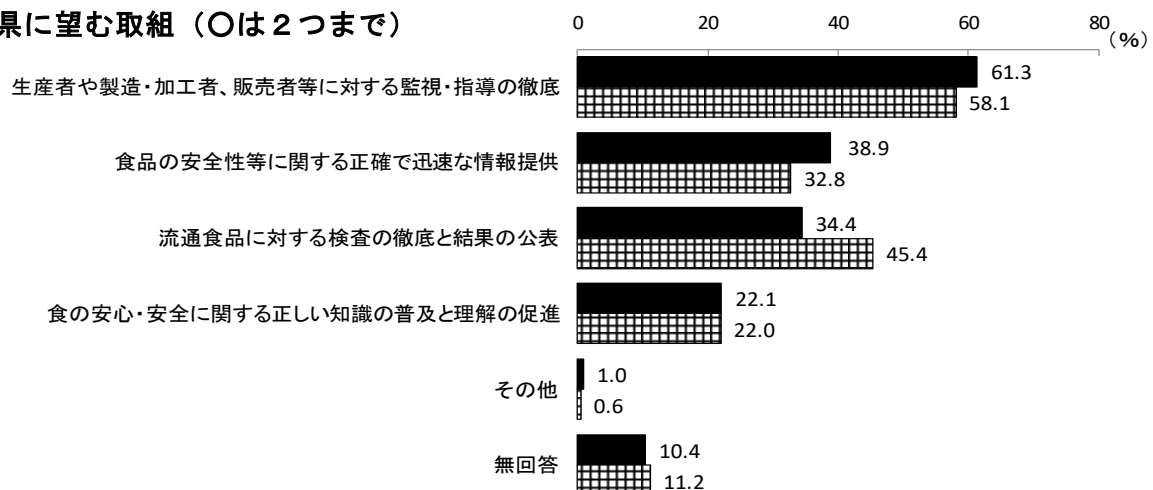
(1) 食品関連事業者に望む取組（○は3つまで）



(2) 消費者に必要な取組（○は3つまで）



(3) 県に望む取組（○は2つまで）



県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組について、「食品関連事業者に望む取組」は、「施設の衛生管理の徹底」が 80.1%と最も高く、次いで「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 60.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 5.8 ポイント、「施設の衛生管理の徹底」が 2.8 ポイントそれぞれ上昇し、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」が 3.2 ポイント低下している。

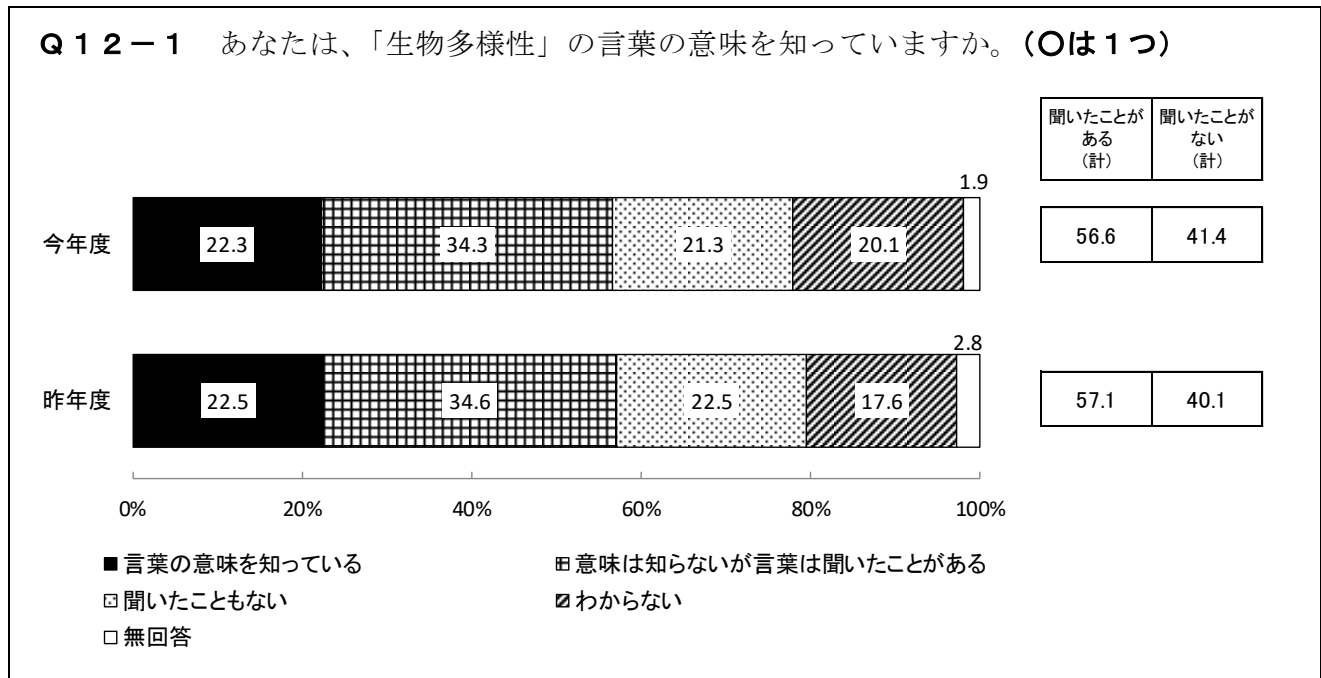
「消費者に必要な取組」は、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 70.5%と最も高く、次いで「食品添加物や残留農薬などに関する正しい情報の収集と知識の習得」が 57.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 3.4 ポイント、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が 2.7 ポイントそれぞれ上昇し、「見た目や値段より安全性の重視」が 3.8 ポイント低下している。

「県に望む取組」は、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が 61.3%と最も高く、次いで「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 38.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 6.1 ポイント、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」3.2 ポイントそれぞれ上昇し、「流通食品に対する検査の徹底と結果の公表」が 11.0 ポイント低下している

## 1 2. 生物多様性について

「生物多様性」とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。

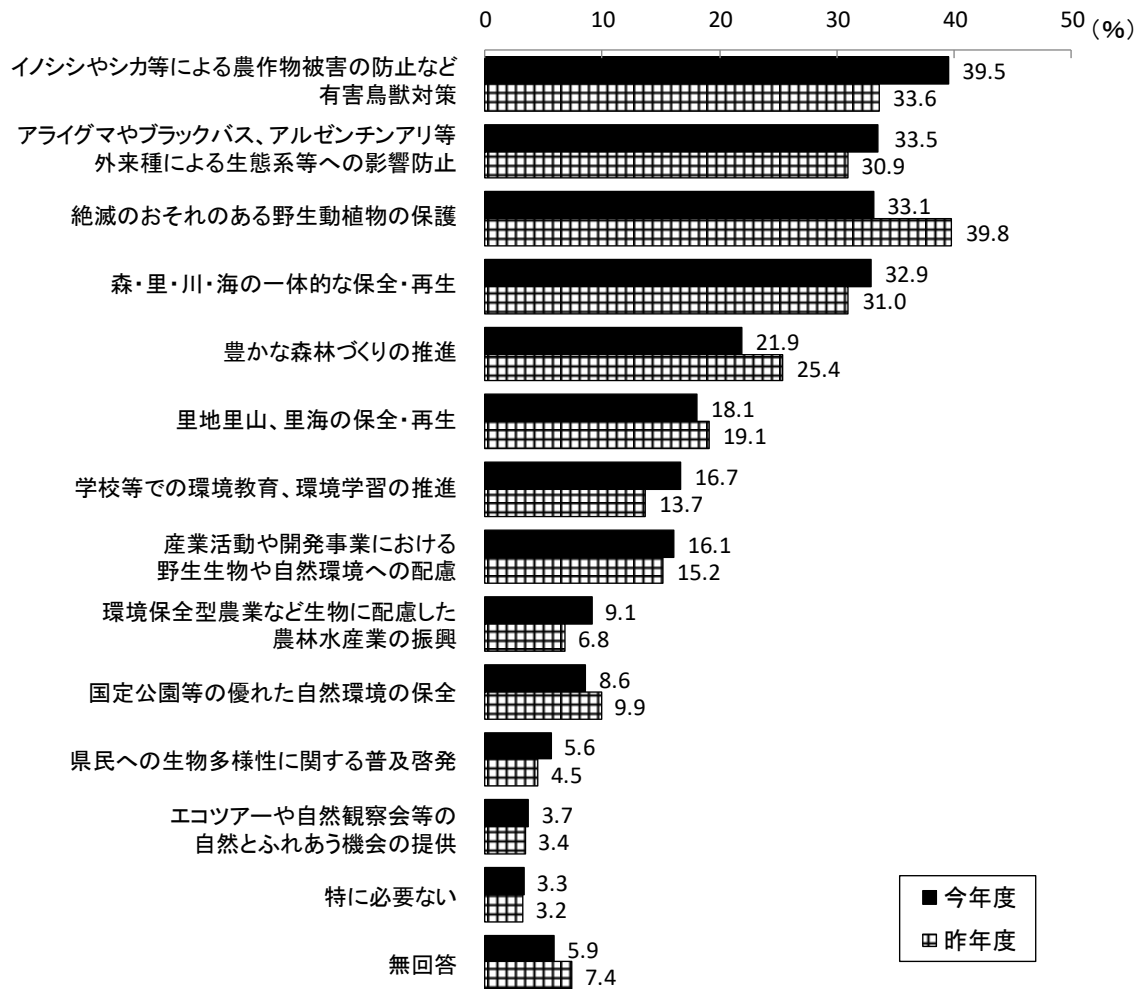
### 1 2 - 1. 「生物多様性」の認知状況



「生物多様性」の認知状況について、「言葉の意味を知っている」が 22.3%、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が 34.3%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがある (計)』は 56.6%となっている。また、「聞いたこともない」が 21.3%、「わからない」が 20.1%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがない (計)』は 41.4%となっている。昨年度と比較すると、同程度で推移している。

12-2. 生物多様性を守るために必要な取組

Q12-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。  
(〇は3つまで)



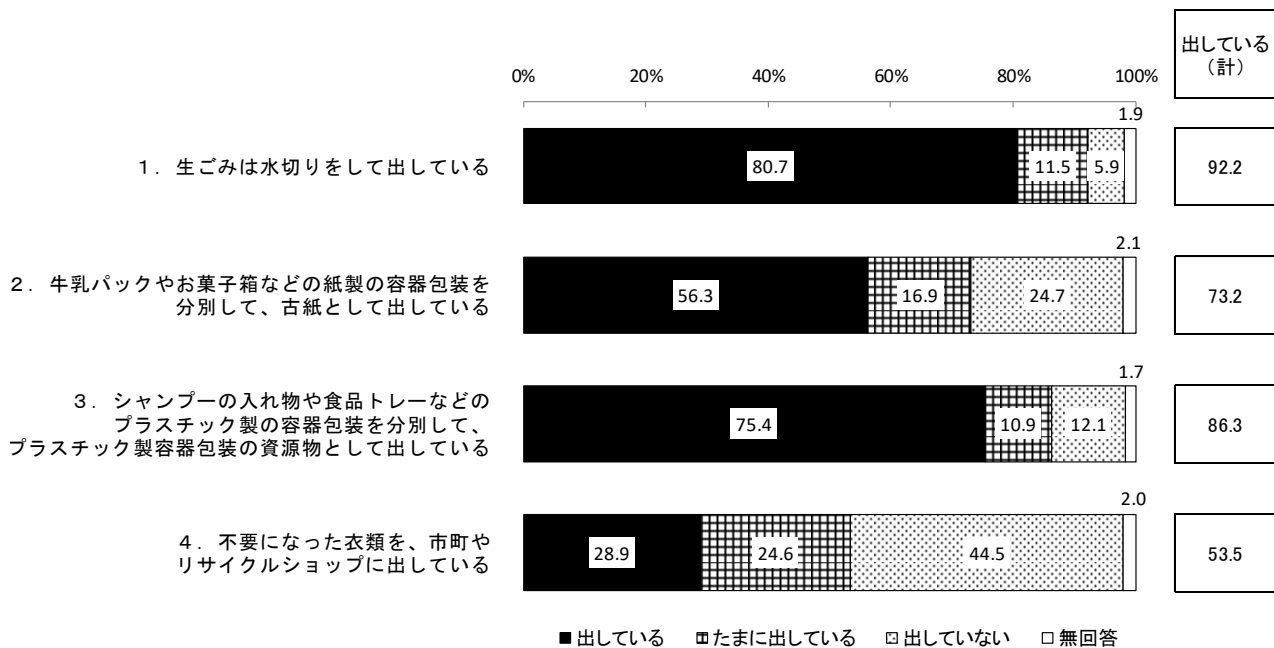
生物多様性を守るために必要な取組について、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が39.5%と最も高く、次いで「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が33.5%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が33.1%、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が32.9%、「豊かな森林づくりの推進」が21.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が5.9ポイント、「学校等での環境教育、環境学習の推進」が3.0ポイントそれぞれ上昇し、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が6.7ポイント、「豊かな森林づくりの推進」が3.5ポイントそれぞれ低下している。

### 1 3. 循環型社会づくりについて

「循環型社会づくり」とは、大量生産・大量消費・大量廃棄を改め、廃棄物をなるべく出さず（リデュース）、使える物は繰り返し使い（リユース）、できるだけ資源として再利用し（リサイクル）（以下「3R」という。）、利用できない廃棄物は適正に処分することで、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り減らす社会づくりのことをいいます。

#### 1 3-1. 家庭ごみの出し方

Q 1 3-1 家庭から出る家庭ごみをどのように出していますか。（〇はそれぞれ1つ）

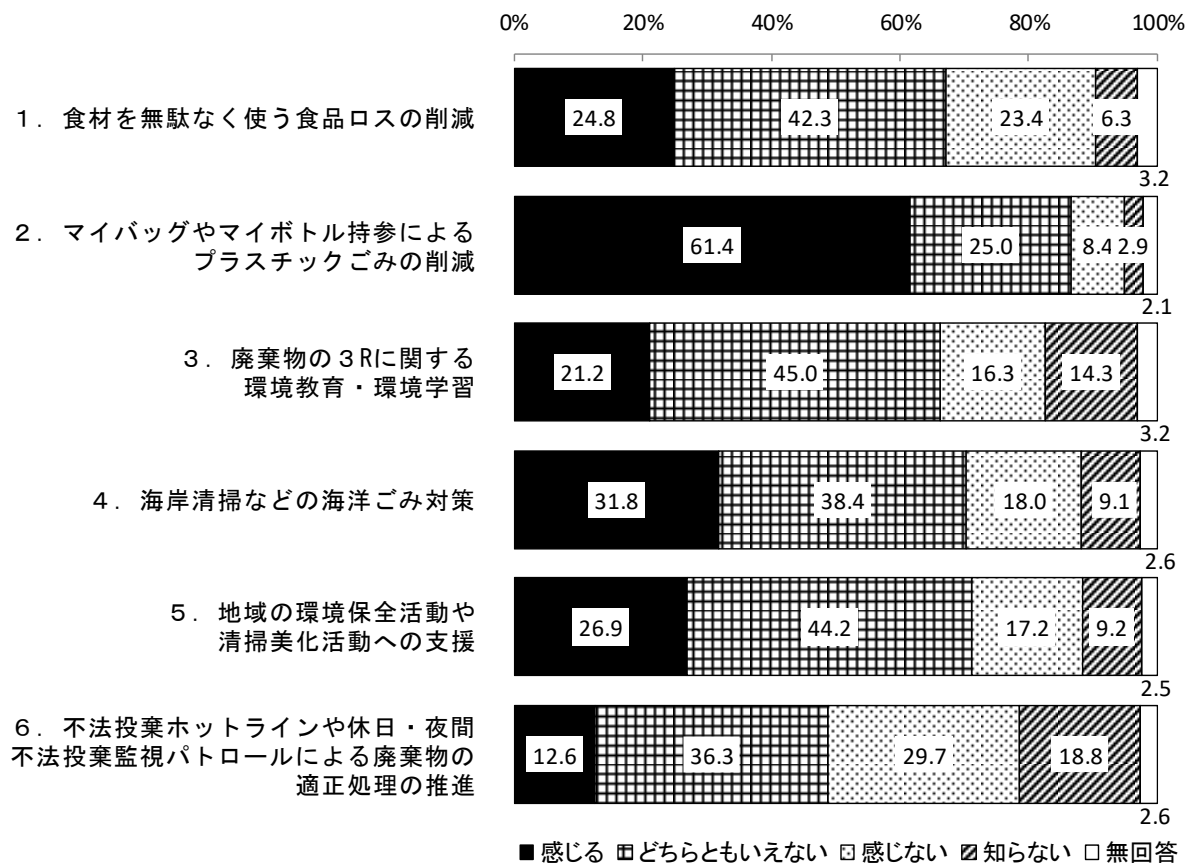


家庭ごみの出し方について、「出している」と「たまに出している」を合わせた『出している（計）』の割合は、「1. 生ごみは水切りをして出している」が 92.2%、「3. シャンプーの入れ物や食品トレーなどのプラスチック製の容器包装を分別して、プラスチック製容器包装の資源物として出している」が 86.3%、「2. 牛乳パックやお菓子箱などの紙製の容器包装を分別して、古紙として出している」が 73.2%、「4. 不要になった衣類を、市町やリサイクルショップに出している」が 53.5%となっており、5割超から9割超となっている。



13-2. 循環型社会づくりに向けた県の施策について、取組が浸透していると感じるもの

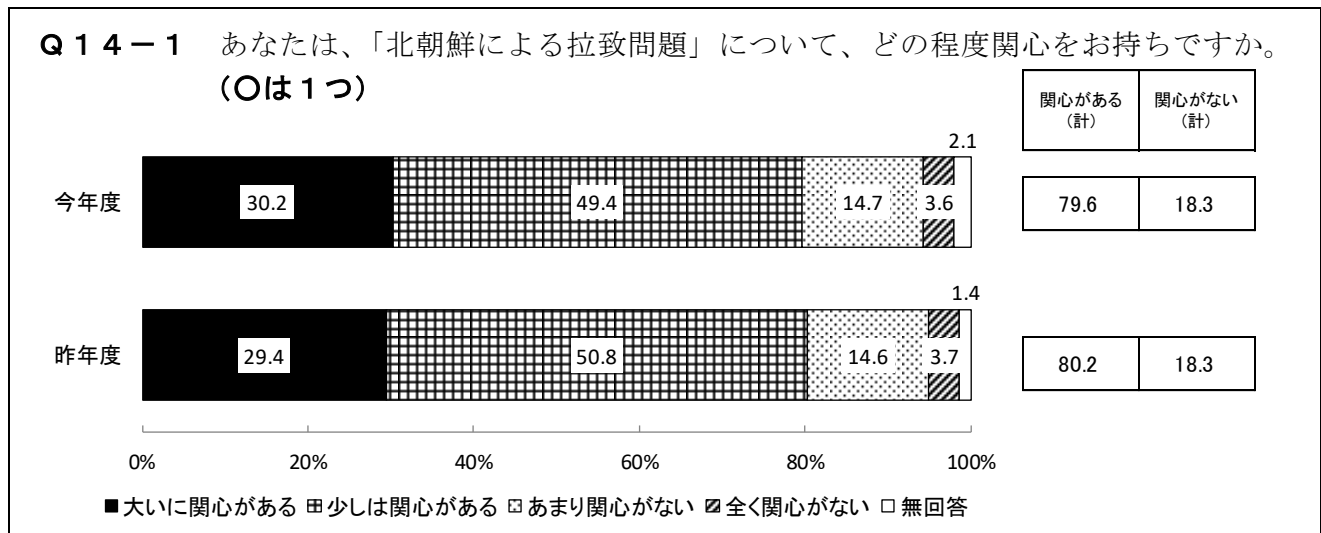
Q13-2 あなたは、循環型社会づくりに向けた県の施策について、取組が浸透していると感じるものはどれですか。（〇はそれぞれ1つまで）



循環型社会づくりに向けた県の施策について、取組が浸透していると「感じる」割合は、「2. マイバッグやマイボトル持参によるプラスチックごみの削減」が61.4%、「4. 海岸清掃などの海洋ごみ対策」が31.8%の順に高くなっており、3割強から6割強となっている。一方「感じない」割合は、「6. 不法投棄ホットラインや休日・夜間不法投棄監視パトロールによる廃棄物の適正処理の推進」が29.7%、「1. 食材を無駄なく使う食品ロスの削減」が23.4%の順に高くなっており、2割台となっている。

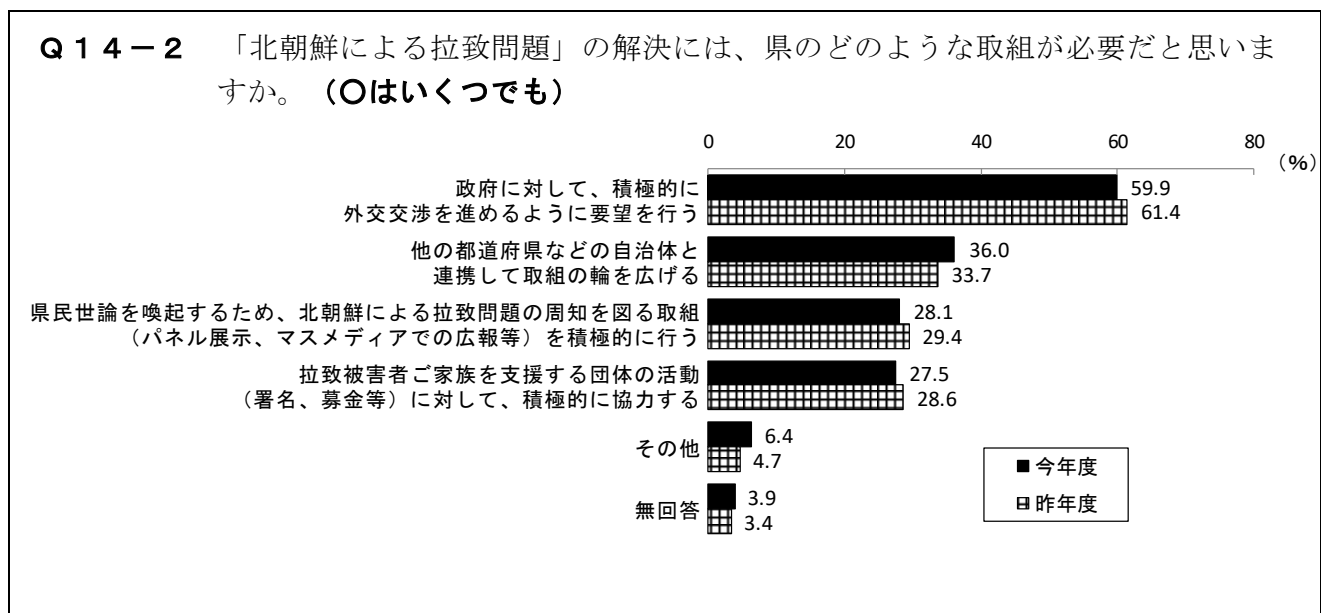
## 14. 北朝鮮による拉致問題について

### 14-1. 「北朝鮮による拉致問題」についての関心



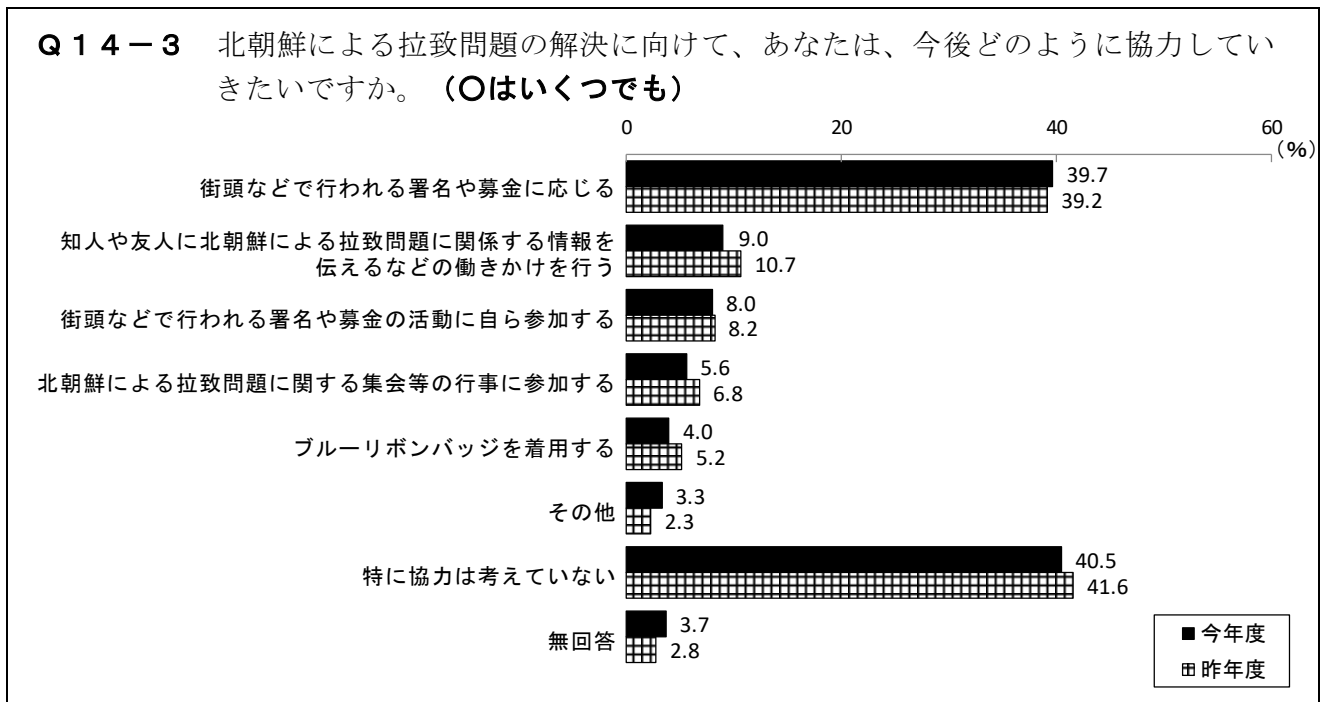
「北朝鮮による拉致問題」について、「大いに興味がある」と「少しは興味がある」を合わせた『関心がある(計)』が79.6%、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が18.3%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較しても、差はみられなかった。

### 14-2. 「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組



「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組について、「政府に対して、積極的に外交交渉を進めるように要望を行う」が59.9%と最も高く、次いで「他の都道府県などの自治体と連携して取組の輪を広げる」が36.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「他の都道府県などの自治体と連携して取組の輪を広げる」が2.3ポイント上昇している。

14-3. 北朝鮮による拉致問題の解決に向けての今後の協力



「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けて今後協力していきたいことについて、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が39.7%と最も高く、次いで「知人や友人に北朝鮮による拉致問題に関する情報を伝えるなどの働きかけを行う」が9.0%、「街頭などで行われる署名や募金の活動に自ら参加する」が8.0%、「北朝鮮による拉致問題に関する集会等の行事に参加する」が5.6%、「ブルーリボンバッジを着用する」が4.0%の順となっている。また、「特に協力は考えていない」は40.5%となっている。昨年度と比較すると、すべての項目で差はみられなかった。

## 15. 薬剤師・薬局について

薬局の中には、薬について身近に相談できるかかりつけ薬剤師・薬局に加え、入退院などで療養環境が変わっても、医療機関等と薬の情報を共有して途切れることなく対応できる「地域連携薬局」や薬以外の健康に関する相談に応じる「健康サポート薬局」があります。

また、山口県独自の取組として、地域において薬学的な健康サポート\*を行う「山口県健康エキスパート薬剤師」を登録・公表しています。

※薬学的な健康サポートとは

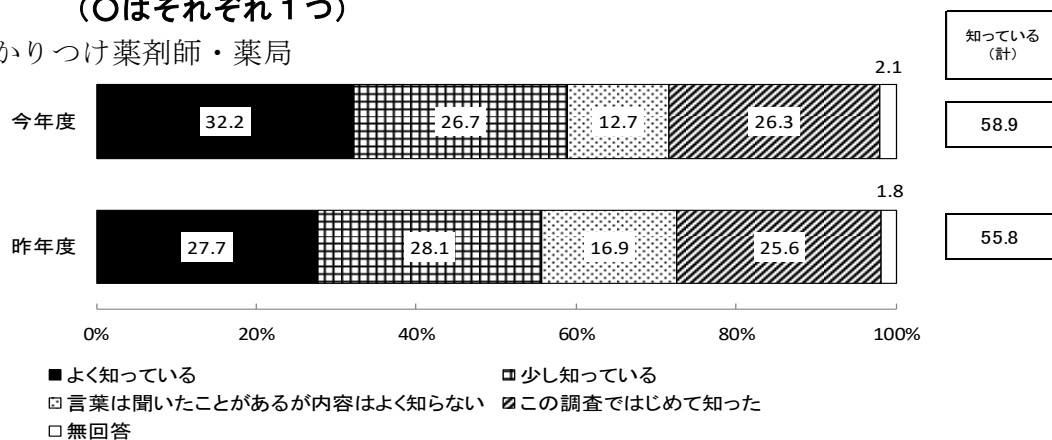
身近な薬局・薬剤師が、学術的な知識、経験などを活かした相談対応、県民が自ら行う健康管理への助言、受診勧奨などの総合的な支援を行うことです。

### 15-1. 薬剤師・薬局に関する取組の認知度

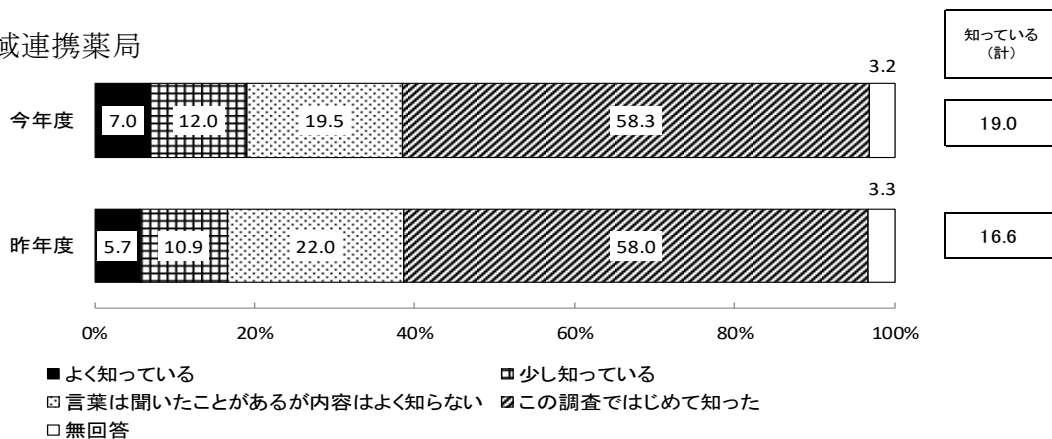
Q15-1 これらの薬剤師・薬局に関する取組について知っていましたか。

(○はそれぞれ1つ)

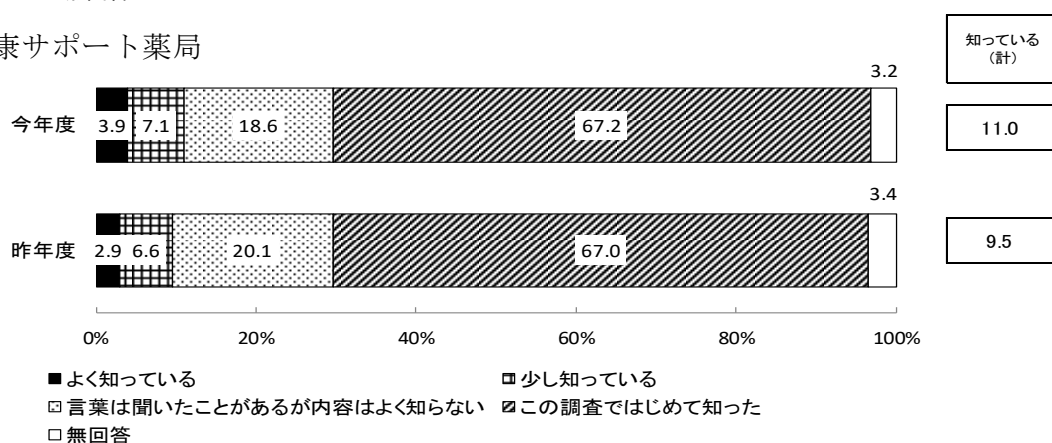
(1) かかりつけ薬剤師・薬局

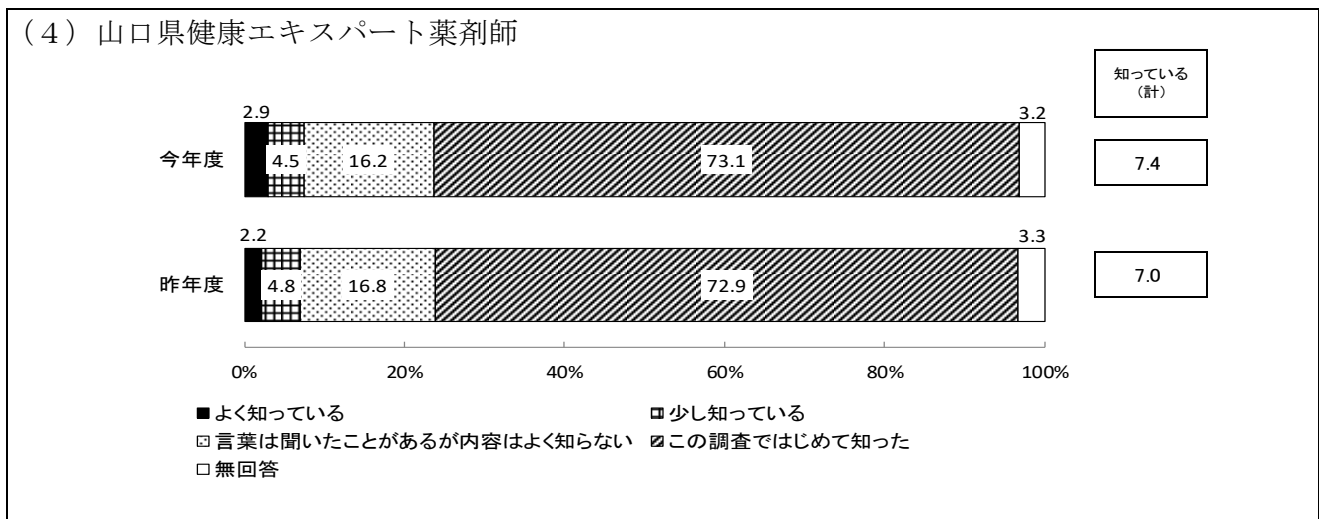


(2) 地域連携薬局



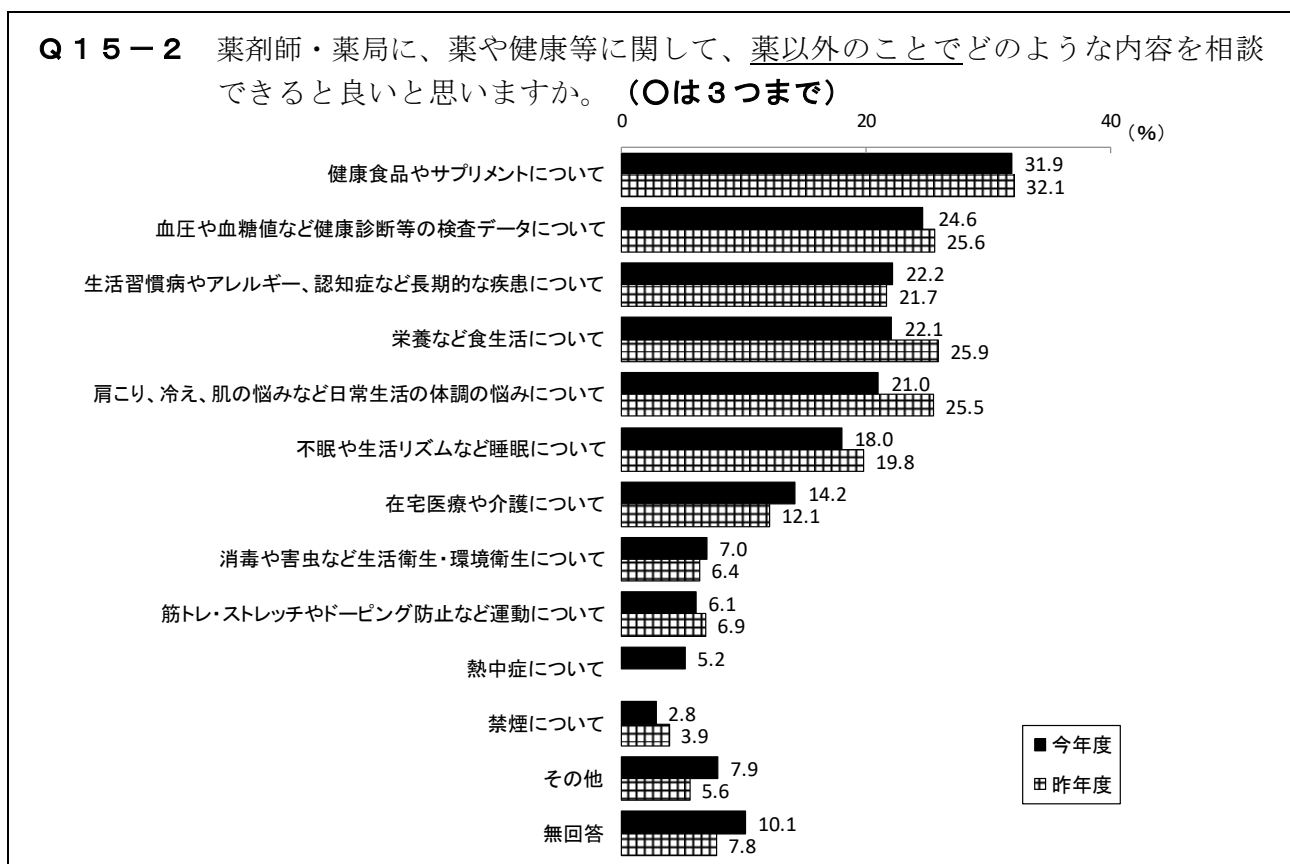
(3) 健康サポート薬局





薬剤師・薬局に関する取組の認知状況について、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている(計)』の割合は、「1. かかりつけ薬剤師・薬局」が58.9%と最も高く、次いで「2. 地域連携薬局」が19.0%の順となっており、昨年度と比較すると、「1. かかりつけ薬剤師・薬局」が3.1ポイント、「2. 地域連携薬局」が2.4ポイントそれぞれ上昇している。一方、「この調査ではじめて知った」の割合は、「4. 山口県健康エキスパート薬剤師」が73.1%と最も高く、次いで「3. 健康サポート薬局」が67.2%となっており、昨年度と同程度で推移している。

15-2. 薬や健康に関して、薬以外のことで相談できると良いと思う内容



※選択肢「熱中症について」は今年度新設のため、昨年度のデータはありません。

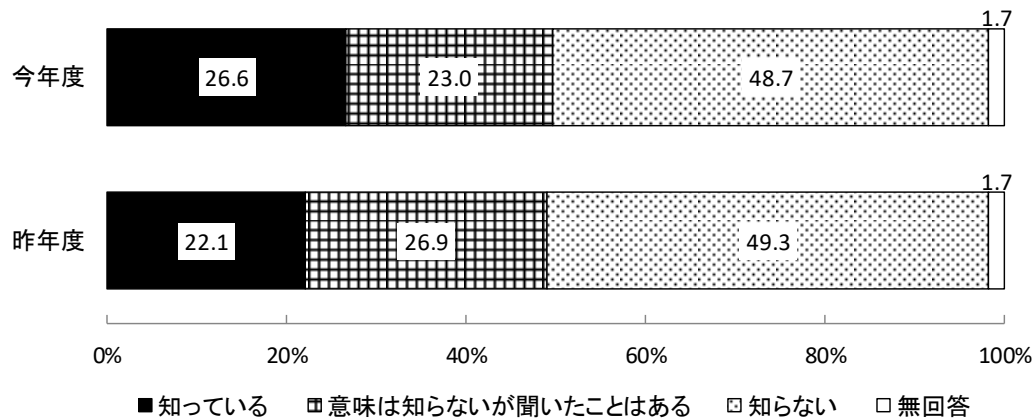
薬や健康に関して相談できると良いと思う内容について、「健康食品やサプリメントについて」が31.9%と最も高く、次いで「血圧や血糖値など健康診断等の検査データについて」が24.6%、「生活習慣病やアレルギー、認知症など長期的な疾患について」が22.2%、「栄養など食生活について」が22.1%、「肩こり、冷え、肌の悩みなど日常生活の体調の悩みについて」が21.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「在宅医療や介護について」は2.1ポイント上昇し、「肩こり、冷え、肌の悩みなど日常生活の体調の悩みについて」が4.5ポイント、「栄養など食生活について」が3.8ポイントそれぞれ低下している。

## 16. 多文化共生について

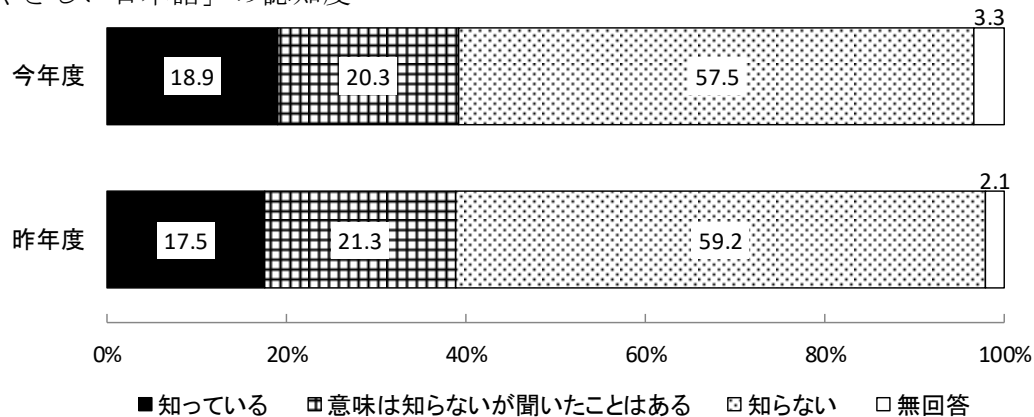
### 16-1. 多文化共生の認知度

**Q16-1** あなたは、「多文化共生」（地域で暮らす外国人と日本人が互いを認め合い共に暮らしていくこと）、及び「やさしい日本語」（普段使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のこと）という言葉を知っていますか。（〇はそれぞれ1つ）

(1) 「多文化共生」の認知度



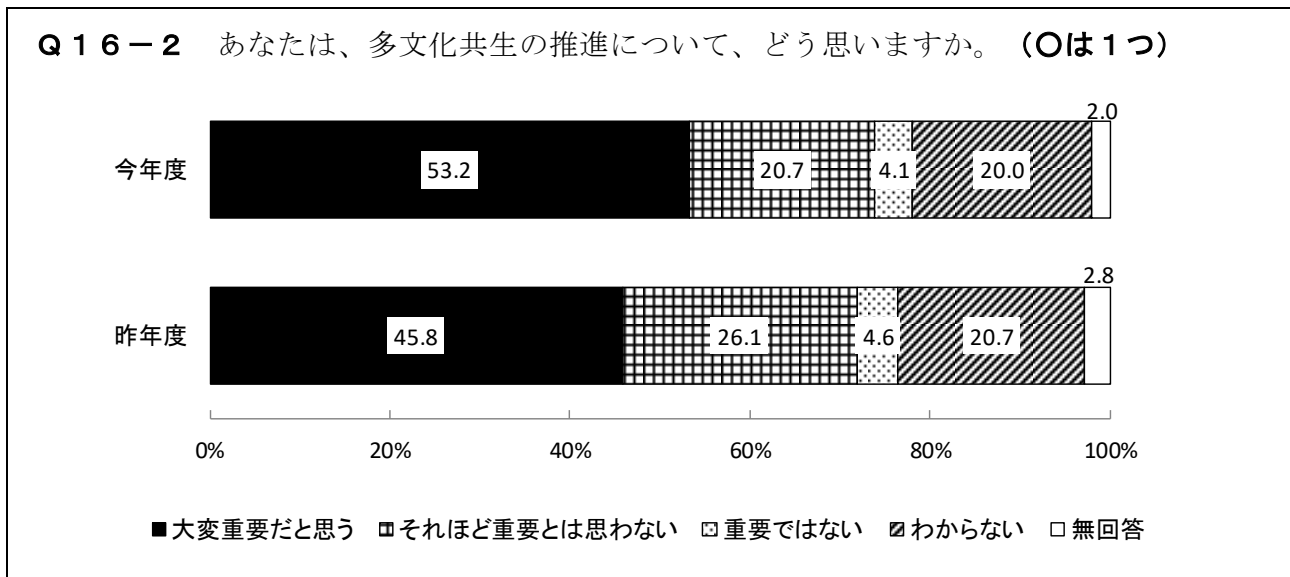
(2) 「やさしい日本語」の認知度



多文化共生の認知度について、「知っている」が 26.6%、「意味は知らないが聞いたことはある」が 23.0%、「知らない」が 48.7%となっている。昨年度と比較すると、「知っている」は 4.5 ポイント上昇し、「意味は知らないが聞いたことはある」は 3.9 ポイント低下している。

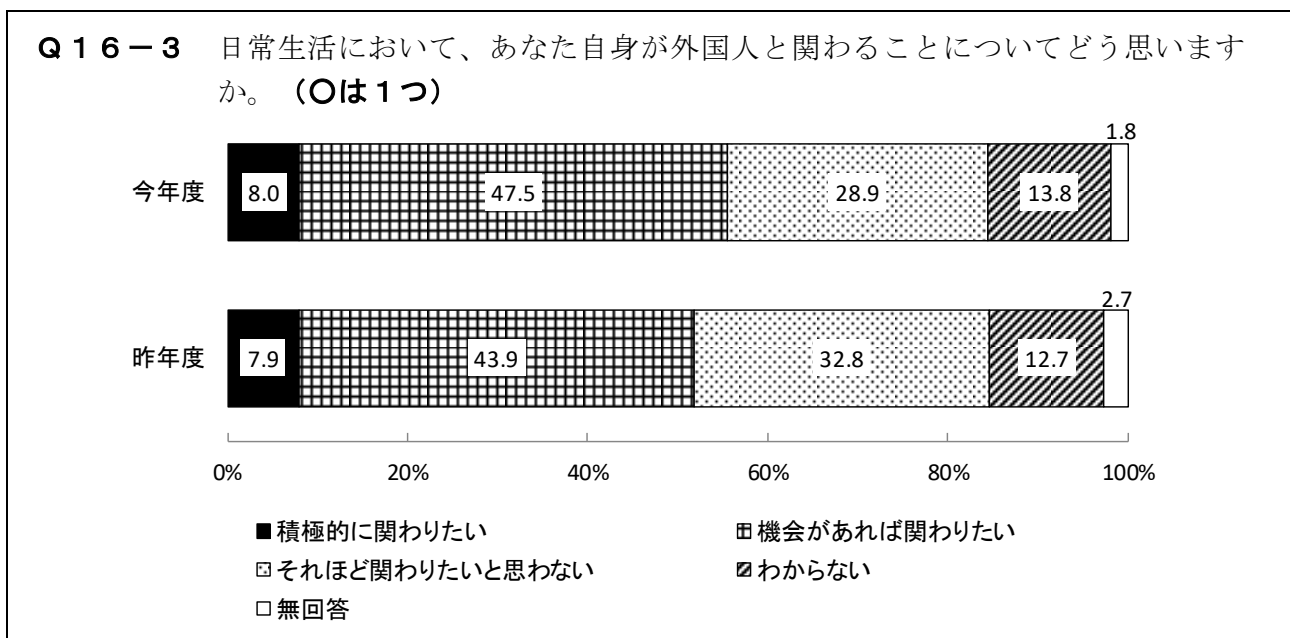
やさしい日本語の認知度について、「知っている」が 18.9%、「意味は知らないが聞いたことはある」が 20.3%、「知らない」が 57.5%となっている。昨年度と比較すると、同程度で推移している。

16-2. 多文化共生の推進



多文化共生の推進について、「大変重要だと思う」が53.2%と最も高く、次いで「それほど重要とは思わない」が20.7%、「わからない」が20.0%、「重要ではない」が4.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「大変重要だと思う」が7.4ポイント上昇し、「それほど重要とは思わない」が5.4ポイント低下している。

16-3. 日常生活で外国人と関わることについて



日常生活で外国人と関わることについて、「機会があれば関わりたい」が47.5%と最も高く、次いで「それほど関わりたいと思わない」が28.9%、「わからない」が13.8%、「積極的に関わりたい」が8.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「機会があれば関わりたい」が3.6ポイント上昇し、「それほど関わりたいと思わない」が3.9ポイント低下している。

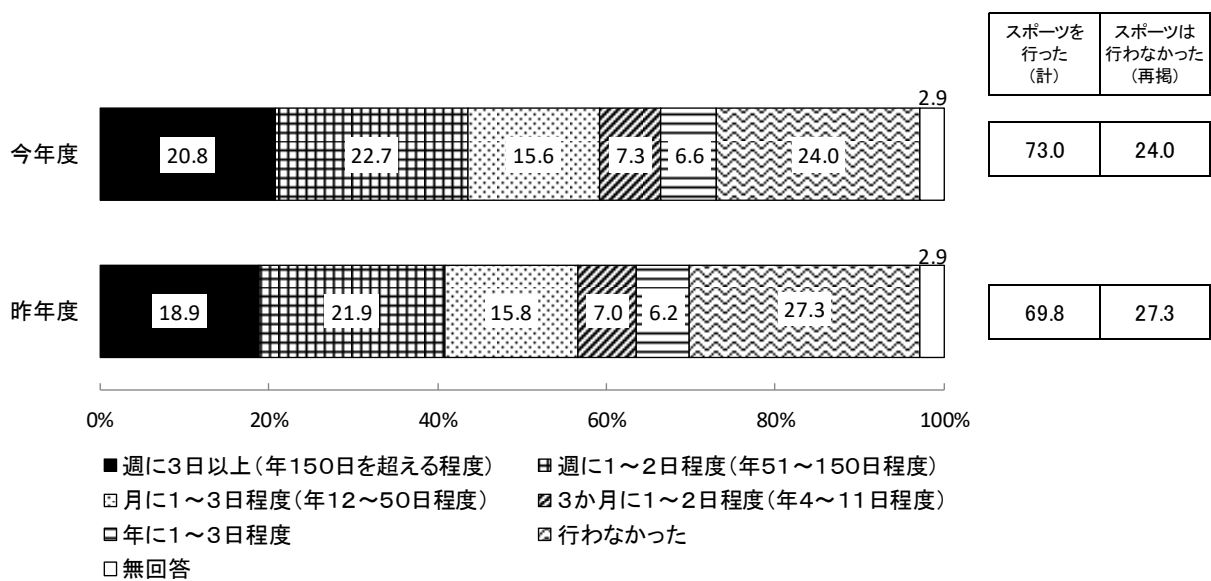


## 17. 運動・スポーツの実施状況について

### 17-1. 運動・スポーツの実施頻度

**Q17-1** あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。  
(〇は1つ)

※「運動・スポーツ」：陸上競技・水泳・球技・武道・マリンスポーツ、ウィンタースポーツ等の他、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、サイクリング、トレッキング・釣り等のアウトドアスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます。

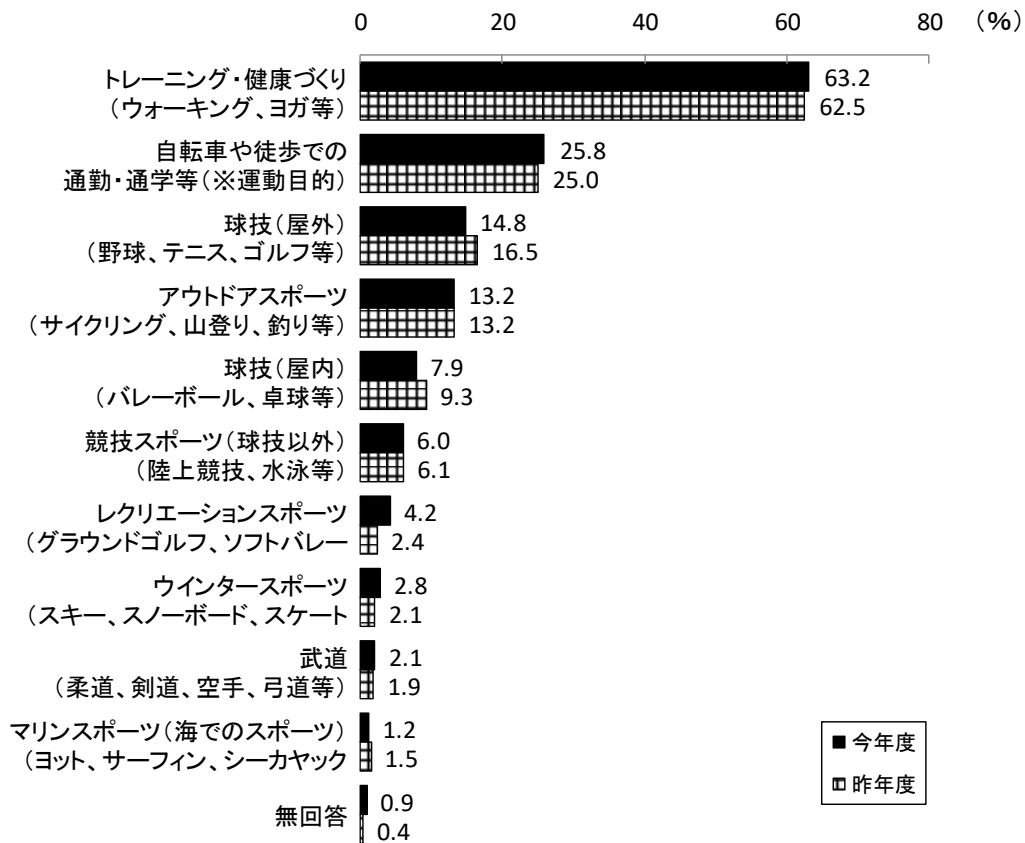


運動・スポーツの実施頻度について質問すると、「行わなかった」が24.0%となっており、昨年度と比較して3.3ポイント低下している。行った頻度は、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が22.7%と最も高く、次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」が20.8%、「月に1~3日程度(年12~50日程度)」が15.6%となっている。昨年度と比較すると、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が1.9ポイント上昇している。

17-2. どのような運動・スポーツを行ったか

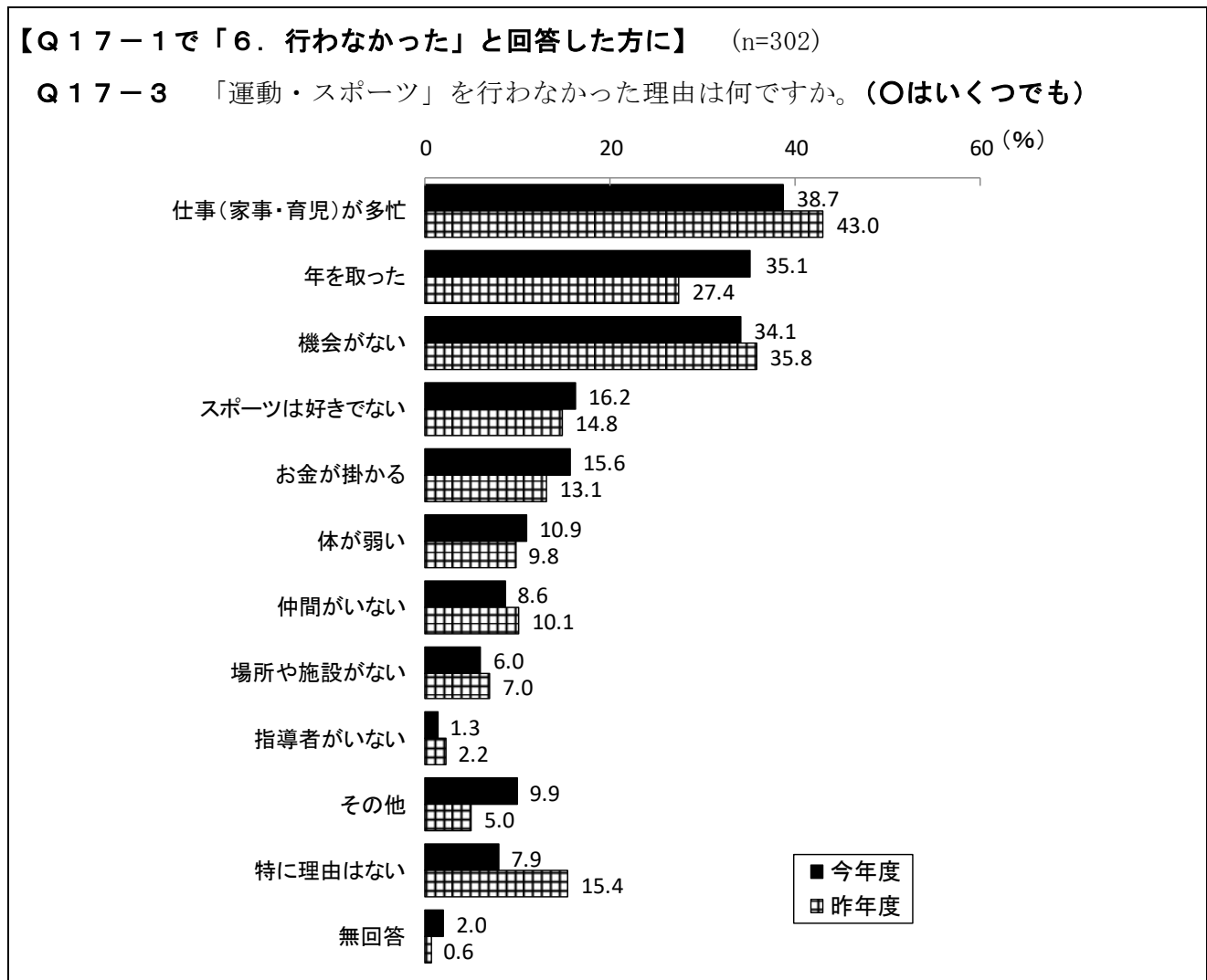
【Q17-1で「1~5. 行った」と回答した方に】 (n=919)

Q17-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)



Q17-1で「行った」と回答した方に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり(ウォーキング・ヨガ等)」が63.2%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等(※運動目的)」が25.8%、「球技(屋外)(野球、テニス、ゴルフ等)」が14.8%、「アウトドアスポーツ(サイクリング、山登り、釣り等)」が13.2%の順となっている。昨年度と比較すると、すべての項目が同程度で推移している。

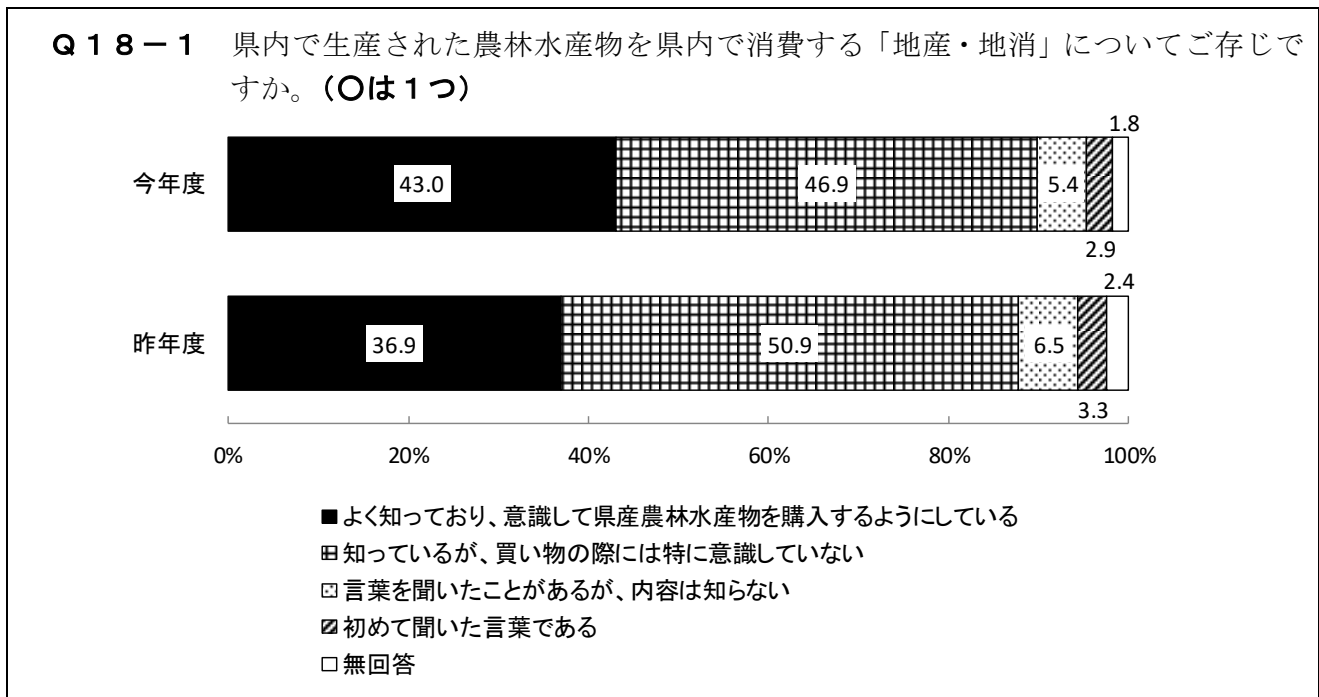
17-3. 運動・スポーツを行わなかった理由



Q17-1で「行わなかった」と回答した方に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事（家事・育児）が多忙」が38.7%と最も高く、次いで「年を取った」が35.1%、「機会がない」が34.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「年を取った」が7.7ポイント上昇し、「仕事（家事・育児）が多忙」が4.3ポイント低下している。

## 18. 地産・地消の推進について

### 18-1. 「地産・地消」の認知状況

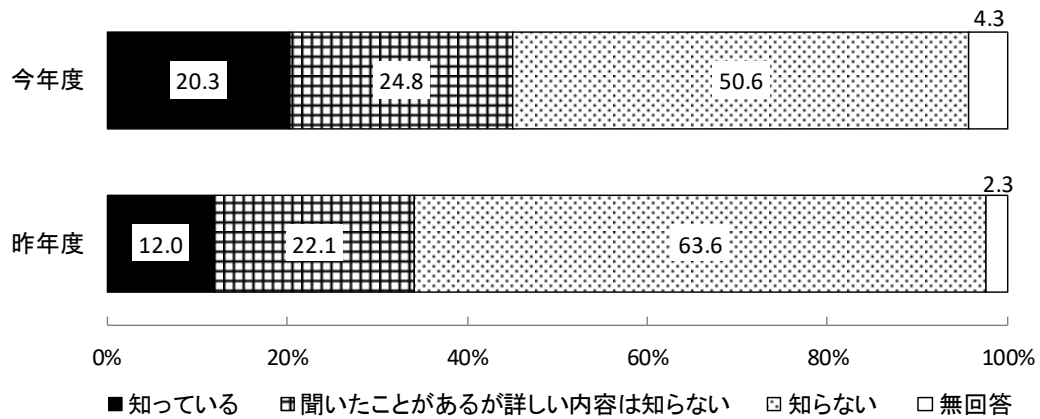


「地産・地消」の認知状況について、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が43.0%、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が46.9%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が5.4%、「初めて聞いた言葉である」が2.9%となっている。昨年度と比較すると、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が6.1ポイント上昇し、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が4.0ポイント低下している。

## 19. 「やまぐち森林づくり県民税」について

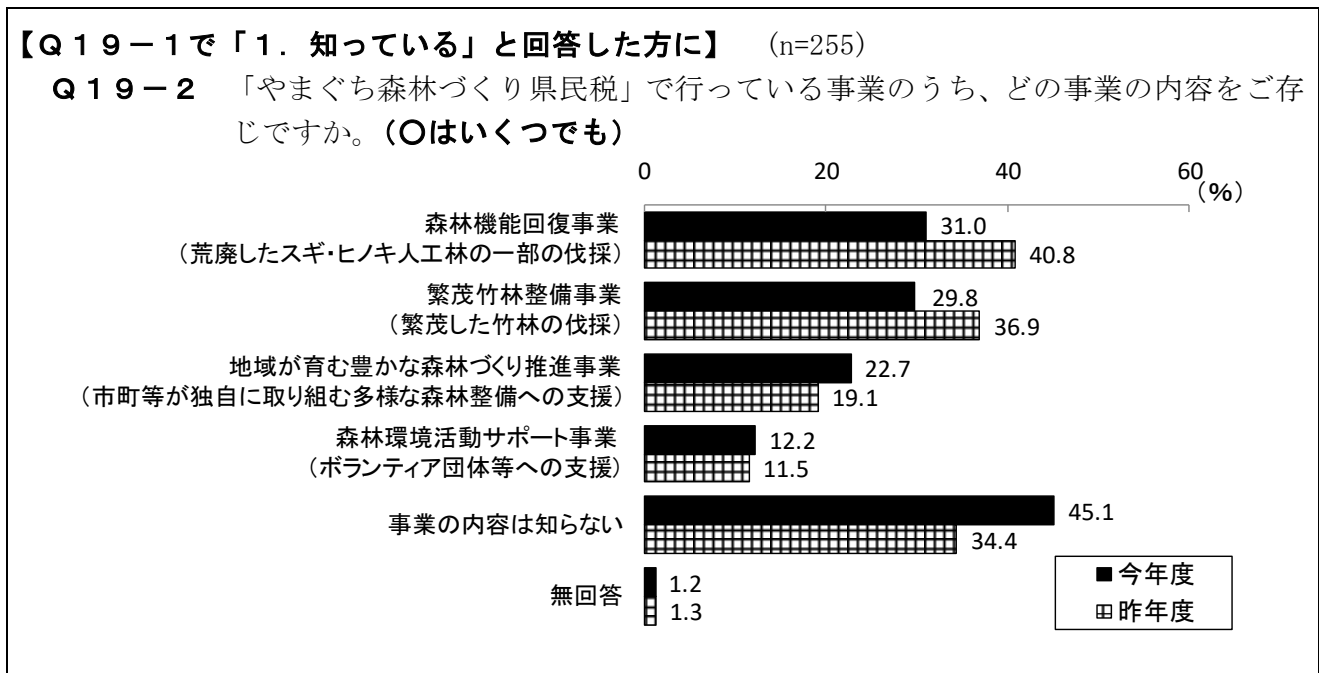
### 19-1. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

**Q19-1** 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。(〇は1つ)



「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知っている」が20.3%、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が24.8%、「知らない」が50.6%となっている。昨年度と比較すると、「知っている」が8.3ポイント、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が2.7ポイントそれぞれ上昇し、「知らない」が13.0ポイント低下している。

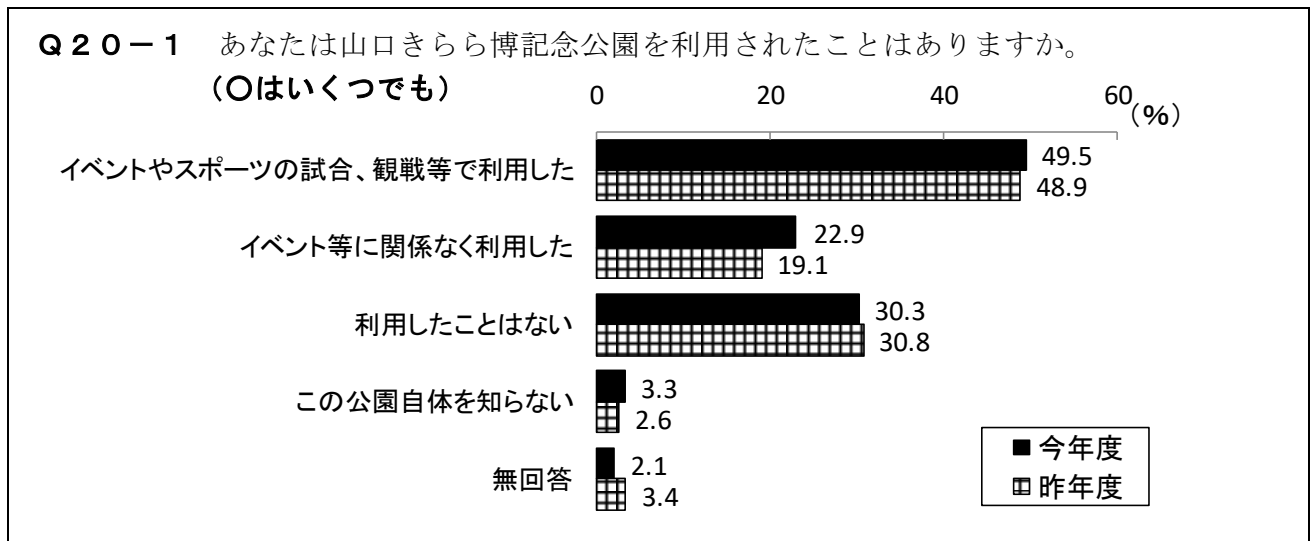
19-2. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容



Q19-1で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、知っている内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が31.0%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が29.8%、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」が22.7%、「森林環境活動サポート事業（ボランティア団体等への支援）」が12.2%の順となっている。昨年度と比較すると、「地域が育む豊かな森林づくり推進事業（市町等が独自に取り組む多様な森林整備への支援）」が3.6ポイント上昇し、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の一部の伐採）」が9.8ポイント、「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が7.1ポイントそれぞれ低下している。また、「事業の内容は知らない」は45.1%となっており、昨年度より10.7ポイント上昇している。

## 20. 山口きらら博記念公園の再整備について

### 20-1. 山口きらら博記念公園の利用状況



山口きらら博記念公園の利用状況について、「イベントやスポーツの試合、観戦等で利用した」が49.5%、「イベント等に関係なく利用した」が22.9%となっている。一方で、「利用したことはない」は30.3%、「この公園自体を知らない」は3.3%となっている。昨年度と比較すると、「イベント等に関係なく利用した」が3.8ポイント上昇している。